

令和5年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金

（社会福祉推進事業分）

包括的支援体制の構築に向けた

研修のあり方に関する調査研究

報告書

令和6（2024）年3月

**NTT DATA**

株式会社NTTデータ経営研究所

## 目次

|                                            |           |
|--------------------------------------------|-----------|
| <b>第1章 事業の概要</b>                           | <b>2</b>  |
| 1. 背景・目的                                   | 2         |
| 2. 実施内容                                    | 2         |
| 3. 実施体制                                    | 3         |
| <b>第2章 庁内外関係者との協力体制の構築に資する研修プログラムのモデル化</b> | <b>5</b>  |
| 1. ヒアリング調査                                 | 5         |
| 1) 調査設計                                    | 5         |
| 2) 実施結果                                    | 6         |
| 2. 包括的な支援体制構築に向けた実践型プログラム（チームづくり編）         | 12        |
| 1) プログラム全体像                                | 12        |
| 2) 事務局による事前準備                              | 15        |
| 3) Step1：キックオフ／わがまちの連携・協働を振り返る             | 18        |
| 4) Step2：包括的な支援体制構築のための取組アイデアを出す           | 21        |
| 5) Step3：取組アイデアの実行プランをつくる                  | 25        |
| <b>第3章 本人本位の支援を地域と共に実施している取組プロセスのモデル化</b>  | <b>28</b> |
| 1. ヒアリング調査                                 | 28        |
| 1) 調査設計                                    | 28        |
| 2) 実施結果                                    | 29        |
| 2. 包括的な支援体制構築に向けた実践型プログラム（地域づくり編）          | 33        |
| 1) プログラム全体像                                | 33        |
| 2) 事務局による事前準備                              | 37        |
| 3) Step1：キックオフ／インタビュー計画を立てる                | 40        |
| 4) Step2：地域の関係者にインタビューする                   | 45        |
| 5) Step3：重なりを生むアイデアを出す                     | 47        |
| 6) Step4：アイデアの実現可能性を検証する                   | 50        |
| 7) Step5：振り返り                              | 51        |
| <b>第4章 まとめ</b>                             | <b>54</b> |

### <別添資料>

1. チームづくり編参考スライド（事務局資料）
2. 地域づくり編参考スライド（事務局資料）

# 第1章 事業の概要

## 1. 背景・目的

令和 3 年度から、厚生労働省において重層的支援体制整備事業（以下「重層事業」という。）を実施する自治体職員や市町村から事業を受託した事業所職員、市町村の後方支援を担う都道府県職員等を対象に、重層事業への理解と包括的な支援体制構築の推進を目的とした人材養成研修（以下「国研修」という。）を実施している。

令和 4 年度国研修では、関係機関間の連携・協働の体制づくりを重視した基礎編研修と、多様な主体による地域共生に資する活動の展開やそれを生み出すプラットフォームの充実を重視した応用編研修を実施した。

具体的には、連携・協働の概念に関する講義や、個別支援事例を題材として関係者と連携・協働して取り組むべき事項を検討する実践演習等を実施した。受講後のアンケート結果から、多くの市町村において庁内外の関係者との協力関係の構築が進み、各市町村における包括的な支援体制の構築に一定程度寄与したことがわかった。

一方、市町村においては、重層事業の実施準備段階や国研修参加後においても、それぞれの状況に応じて包括的な支援体制の構築を継続的に進めることが必要である。また重層事業では、専門職との連携による支援体制だけではなく、多様な主体による地域づくりの促進に目を向け、本人を起点として社会参加を支援することが求められているが、そうした取組はまだ十分に広がっていない。

そこで、市町村がそれぞれの状況に応じて包括的な支援体制の構築を進めることができるよう、国研修のプログラムも参考にしつつ、各市町村において実施できる研修プログラムのモデルを示すことを目的として本事業を実施する。

## 2. 実施内容

本事業では国研修の要素を踏まえ、「庁内外関係者との協力体制の構築に資する研修プログラムのモデル化」と「本人本位の支援を地域と共に実施している事例のモデル化」を検討する。検討にあたり、有識者等からなる検討委員会を設置した。全体スケジュールは図表 1-1 の通り。

- 庁内外関係者との協力体制の構築に資する研修プログラムのモデル化（第 2 章）

令和 4 年度の国研修に参加した自治体にヒアリングを実施し、ヒアリング結果を元に、市町村向け研修プログラムを検討する。

- 本人本位の支援を地域と共に実施している取組プロセスのモデル化（第 3 章）

困り事を抱えている本人を起点に、制度だけではなく、地域全体で本人を支えようとしている事例を研究し、その結果を踏まえ、本人本位の支援を地域と共に実施する取組モデルの整理と、その実現に寄与する市町村向け研修プログラムを検討する。

図表 1-1 本事業の実施内容とスケジュール

| 実施項目                                      | 令和5年       |     |          |          |         | 令和6年        |     |     |
|-------------------------------------------|------------|-----|----------|----------|---------|-------------|-----|-----|
|                                           | 8月         | 9月  | 10月      | 11月      | 12月     | 1月          | 2月  | 3月  |
| ①庁内外関係者との協力体制の構築に資する研修プログラムのモデル化（チームづくり編） | 事業設計       |     | 市町村ヒアリング |          | モデル化の検討 | モデル化（とりまとめ） |     |     |
| ②本人本位の支援を地域と共に実施している取組プロセスのモデル化（地域づくり編）   | 成果物イメージの検討 |     | 仮説検証     | 市町村ヒアリング | モデル化の検討 | モデル化（とりまとめ） |     |     |
| ③検討委員会                                    |            | 第1回 |          |          | 第2回     |             | 第3回 | 第4回 |

### 3. 実施体制

本事業の実施方法や成果物について検討を行うため、地域共生社会や重層事業に関する有識者及び現場経験者からなる検討委員会を設置した。

#### ① 検討委員会委員（敬称略）

| 氏名    | 所属・役職                               |
|-------|-------------------------------------|
| 新保 美香 | 明治学院大学社会学部 教授                       |
| 秋山 太  | 久留米市地域福祉課                           |
| 加藤 恵  | 半田市社会福祉協議会<br>半田市障がい者相談支援センター センター長 |
| 齊藤 哲也 | 岡崎市福祉部ふくし相談課 課長                     |
| 永田 祐  | 同志社大学社会学部 教授                        |
| 室田 信一 | 東京都立大学人文社会学部 准教授                    |

#### ② オブザーバー（敬称略）

| 氏名     | 所属・役職                           |
|--------|---------------------------------|
| 米田 隆史  | 厚生労働省社会・援護局地域福祉課地域共生社会推進室 室長    |
| 高坂 文仁  | 厚生労働省社会・援護局地域福祉課地域共生社会推進室 室長補佐  |
| 石原 珠代  | 厚生労働省社会・援護局地域福祉課地域共生社会推進室 室長補佐  |
| 犬丸 智則  | 厚生労働省社会・援護局地域福祉課地域共生社会推進室 支援推進官 |
| 鈴木 菜々子 | 厚生労働省社会・援護局地域福祉課地域共生社会推進室 係長    |
| 吉井 綾音  | 厚生労働省社会・援護局地域福祉課地域共生社会推進室       |

#### ③ 事務局

| 氏名 | 所属・役職 |
|----|-------|
|----|-------|

|       |                                                 |
|-------|-------------------------------------------------|
| 大野 孝司 | (株) NTT データ経営研究所 ライフ・バリュー・クリエイションユニット シニアマネージャー |
| 井上 裕章 | 同 シニアコンサルタント                                    |
| 李 鐘浩  | 同 シニアコンサルタント                                    |

調査の設計と結果の考察にあたり、検討委員会を計 4 回開催し、事務局が結果をとりまとめた。

|       | 日時・場所                                                                   | 主な検討内容                                                                                                                |
|-------|-------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第 1 回 | 令和 5 年 9 月 15 日 (金)<br>14:00～16:00<br>外部会場／オンライン会議                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>事業の実施内容</li> <li>ヒアリング調査実施概要 (ヒアリング自治体、調査項目等)</li> <li>とりまとめイメージ</li> </ul>    |
| 第 2 回 | 令和 5 年 12 月 11 日 (月)<br>13:00～15:00<br>株式会社 NTT データ経営研究所会<br>議室／オンライン会議 | <ul style="list-style-type: none"> <li>ヒアリング結果の報告</li> <li>ヒアリング結果を踏まえたモデル骨子</li> </ul>                               |
| 第 3 回 | 令和 6 年 2 月 16 日 (金)<br>14:00～16:00<br>株式会社 NTT データ経営研究所会<br>議室／オンライン会議  | <ul style="list-style-type: none"> <li>市町村の包括的な支援体制の構築に資する研修プログラムのモデル化</li> <li>本人本位の支援を地域と共に実施している事例のモデル化</li> </ul> |
| 第 4 回 | 令和 6 年 3 月 18 日 (月)<br>16:00～17:00<br>オンライン会議                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>市町村の包括的な支援体制の構築に資する研修プログラムのモデル化</li> <li>本人本位の支援を地域と共に実施している事例のモデル化</li> </ul> |

## 第2章 庁内外関係者との協力体制の構築に資する研修プログラムのモデル化

### 1. ヒアリング調査

#### 1) 調査設計

##### (1) 目的

令和4年度国研修の有効性や課題を把握し、研修プログラムのモデルとして活用できる要素を抽出する。

##### (2) 調査対象

令和4年度国研修を受講した自治体のうち、以下の点を考慮して4～5自治体を抽出する。

- ・ 研修への参加体制（庁内外多分野からの成るチームで参加した自治体から抽出）
- ・ 人口規模（大規模・中規模・小規模それぞれから抽出）

##### (3) 調査内容

庁内外関係者との協力体制の構築に資する研修プログラムのモデル作成の参考とするため、以下の事項について調査する。

- ・ 国研修参加前の「包括的な支援体制」構築の状況、そこに至るまでの経緯（時間軸、体制の進展の経過）
- ・ 国研修に参加した目的・研修に参加して達成したかったこと
- ・ 国研修に参加した体制（参加者）、および、人選の理由
- ・ 国研修を踏まえた庁内外関係者との協力体制の構築について（研修中・研修後を含め、関係者との役割分担やコミュニケーション、連携の内容・方法（時間軸と共に））
- ・ 国研修によって得られた成果、およびその要因
- ・ 国研修の実施内容のうち、難しかったこと、よくわからなかったこと
- ・ 国研修と組み合わせた独自の研修や取組の有無、具体的内容 等

##### (4) 実施方法

令和4年度国研修に参加した際のとりまとめ役を担った主管部署の担当者に対してヒアリングを実施する。

また、研修参加前後の市町村内での検討状況や運用状況がわかる資料として以下のような資料の提供を受けて実態を把握する。

- ・ 自治体内の体制構築の過程で使用した主な資料一式（関係者と認識合わせをするために使用した資料、等）
- ・ 国研修を活用した体制構築にあたって使用した主な資料一式

## 2) 実施結果

### (1) 各市町村へのヒアリング結果

#### ① 香川県高松市

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 研修参加前までの主な取組と課題認識     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 30 年 8 月からモデル事業開始。令和 4 年度から重層事業開始。</li> <li>・ 「まるごと福祉相談員」、「つながる福祉相談窓口」を市内全域に配置しているが、市民の認知度は低い。</li> <li>・ 研修等を行うが、庁内外関係者の重層事業や地域共生社会についての理解が深まらない。</li> <li>・ そのため、重層的支援会議や支援会議にかけた方がいい案件でも、なかなかつながらない。</li> </ul>                                                                                                                               |
| 研修の成果と要因              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の課題を題材に、委託先を含めた関係者と連携方針等を共有した。（研修期間中、複数回話し合いを実施）</li> <li>・ 実践演習に倣い、主担当課が講師となり、相談事例を元としたグループワーク研修を庁内関係者向けに実施した。（研修のバージョンアップ）</li> <li>・ ライブ研修①の講義で学んだ「連携に関するマナー」を、市独自の重層事業マニュアルに反映した。</li> <li>・ 実践演習②を通じて現場を知る必要性を感じたため、現場見学のための施設ツアーは実際に今年度実施した。</li> <li>・ 重層事業に関する困り事についてアンケートを実施し、関係者との情報共有会で、寄せられた困り事や解決策の共有をしている。</li> </ul>               |
| 研修の参加体制               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 庁内各分野担当、委託先（社協及び一般社団法人 hito.toco）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 包括的な支援体制の構築に向けたその他の取組 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 30 年に「地域共生推進プロジェクトチーム」（関係 41 課室（令和 5 年度現在）がメンバー）を設置し、年 2 回全体会合を実施。</li> <li>・ 懸案事項ごとに少人数の重層的支援会議・支援会議（まるごと福祉相談員＋主担当課＋重層関係課）を実施。</li> <li>・ 実務レベルではワーキンググループも設置。</li> <li>・ ワーキンググループを中心としたメンバーに、委託先を加えて、情報共有会を年 6 回実施し、事業の情報共有とネットワークづくりの場として活用。</li> <li>・ 市内 7 エリアのケース会議で集まる人を対象に「まるごと福祉定例会」を開催し、情報共有やグループワークを年 2 回実施し、顔の見える関係性を構築。</li> </ul> |

## ② 北海道旭川市

|                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>研修参加前までの主な取組と課題認識</p>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 30 年度の地域福祉計画改定の際、民生委員や社協への調査により、市内に複合的な課題を抱えた世帯等を確認。</li> <li>・ 令和 4 年度から重層事業開始。</li> <li>・ 高齢の分野に限定されていた生活支援コーディネーターを、分野を超えて支援を行う「地域まるごと支援員」としてリニューアル。増員に加えて、統括支援員も新たに配置した。</li> <li>・ 事業開始後、重層事業に取り組む意義や方針は関係者と十分に共有できていなかった。</li> <li>・ 具体的にどのように事業を実施していくのか、目線合わせが必要な状態だった。</li> </ul>                                               |
| <p>研修の成果と要因</p>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「保健所と役所に人事交流を行っている」という自治体の話を聞き、自分たちも保健所と顔の見える関係を築くために対面で話す機会を設けた。</li> <li>・ 実践演習③の「今後取り組みたいこと」として記載していた「ケース対象者が活躍できる場の創出」に、研修後取り組んだ。</li> <li>・ 関係者と様々な情報を共有する場を新たに設けるのではなく、重層的支援会議を活用している。</li> <li>・ どうしたら伝わるのか、興味を持ってもらえるのかということをより考えるようになった。また、なるべくフランクに協力要請できる関係性を重視している。</li> <li>・ 地域に目を向けることで、既に様々な取組が地域で行われていることに気づいた。</li> </ul> |
| <p>研修の参加体制</p>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主担当課（2 名）と委託先（社協）</li> <li>・ 「地域まるごと支援員」は全員参加</li> <li>・ ※関係課にも声をかけたが、参加は得られなかった。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                |
| <p>包括的な支援体制の構築に向けたその他の取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福祉関係の事業所や、役所内の全部局を対象とした「合同研修会」を年に 2 回開催。</li> <li>・ プログラムの具体的内容は委託先（社協）が検討。（令和 4 年度は「抱樸」の奥田氏を講師に迎えて「伴走支援」等について講義を実施）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                             |

③ 福岡県久留米市

|                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>研修参加前までの主な取組と課題認識</p>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和２年度から重層事業の具体的な体制を構築する取組を開始しており、令和３年度から重層事業を開始した。研修を受講したのは、重層が立ち上がって１年くらいたった時。</li> <li>・ 市として国の包括的な支援体制のモデル事業を受託する前に、社会福祉法人が先行して国のモデル事業に取り組んでいた。</li> <li>・ 研修前は、重層事業で何をすべきかを関係者間で共有できていなかった。重層事業の担当課はケースを持たないため、他の課の業務を知りたいと考えていた。</li> <li>・ 参加支援など、新しい事業の認知度にも課題感があった。</li> </ul> |
| <p>研修の成果と要因</p>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の中で、関係各課のキーパーソンと関係性を作ることができた。</li> <li>・ 重層的支援会議における７つの心得を作成し実践している。</li> <li>・ 個別支援の経験はないが、実践演習で専門職から教えてもらい、その苦労等を共有できたのはよかった。</li> <li>・ 民間からのアプローチに対する受け入れの雰囲気が変わった。重層研修受講者メンバーを中心に、実感として伝わったことが変化につながっているのかもしれない。共通認識を持てていたつもりになっていたのが、違いを知ることで「重なっていない」ということに気付ける。</li> </ul>   |
| <p>研修の参加体制</p>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主担当課（地域福祉課）に加えて、アウトリーチ、参加支援、多機関協働の委託先</li> <li>・ 包括、高齢、障害、子ども、困窮それぞれの担当分野の担当課職員又は委託先</li> </ul>                                                                                                                                                                                        |
| <p>包括的な支援体制の構築に向けたその他の取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「重層的な支援体制の構築を考える会」を実施している。</li> <li>・ 考える会は、関係課・機関で日ごろから課題に感じていることを議題とし、年間１０回ほど開催している。高齢・障害・子ども・困窮分野以外の担当課や市民活動団体も参加し、一緒に検討している。</li> </ul>                                                                                                                                            |

④ 岡山県岡山市

|                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|--------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>研修参加前までの主な取組と課題認識</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 30 年 3 月に地域共生社会推進計画を策定、平成 30 年度から多機関協働事業のモデル事業に取り組む。令和 3 年度に重層事業への移行準備事業を行い、令和 4 年度から重層事業を開始。</li> <li>・ 平成 30 年度からワーキンググループを設置し、相談支援包括化推進員の配置や情報共有ツール「つなぐシート」の作成、相談機関一覧の作成に取り組んだ。ワーキンググループには高齢、障害、困窮、子ども、その他の関係課職員、行政以外では、地域包括支援センター（岡山市ふれあい公社）と相談支援包括化推進員（岡山市社会福祉協議会）が参加。</li> <li>・ 重層事業移行時に庁内関係課へ声をかけた際、具体的なメリットを伝えることが難しく、岡山市としてどういう方向性で重層事業を実施したいのかというイメージが共有できていなかった部分もあった。</li> <li>・ 多機関協働事業は平成 30 年度から実施しており、令和 3 年度に各支援機関にアンケート調査を行い、これまで、多機関協働事業を行う中での課題について聞き取りを行い、岡山市としてどのような取組が必要かを検討した。</li> </ul> |
| <p>研修の成果と要因</p>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修への参加が、人を集めるきっかけ作りになったのが良かった。「国の研修があるから」「国研修の課題を検討するため」というのが理由になって、関係者がつながることができた部分は大きい。</li> <li>・ 個別支援と地域づくりのつながりについての視点がそれまであまりなく、研修を通じて話することで、参加者にとっても、新しい気づきが得られた。また、保健福祉企画総務課が主催する専門職人材育成研修にも、重層研修をきっかけに参加してもらえるようになっている。</li> <li>・ 社会福祉法人の広域的な取組（高齢・障害・子ども）のカリキュラムでも、アウトリーチ・参加支援事業の個別支援事業者が参加させてもらうなど、連携が深まった。</li> </ul>                                                                                                                                                                                    |
| <p>研修の参加体制</p>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政としては困窮分野の生活保護・自立支援課と保健福祉企画総務課のみ。加えて、相談支援包括化推進員、自立相談支援員、アウトリーチ・参加支援事業の委託先が参加。</li> <li>・ 障害・子ども分野は参加しておらず、終了後にメール等で情報共有した。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 包括的な支援体制の構築に向けたその他の取組 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域づくり支援を行っている支え合い推進員（SC）と個別支援を行っているアウトリーチ・参加支援事業の委託先及び相談支援包括化推進員が集まり、顔合わせもかね情報共有会議を実施。</li> <li>・ ケースで関わりのある病院なども含めて、30 名程度で事例検討しつつ、顔の見える関係を作り、連携しながら適切な支援につないでいくことを目的に、専門職人材育成研修を開催。市内 6 つの福社区（福祉事務所の管轄）ごとに、年ごとに順次、専門職人材育成研修を開催する予定。</li> <li>・ 庁内向けにも、保健福祉局とこども局向けの研修で、地域共生社会の考え方や連携体制等を伝えている。</li> <li>・ 令和元年度から生活支援体制整備事業の取組として、社会福祉法人の公益的な取組に関する研修等を行っている。重層事業移行後は、アウトリーチ・参加支援事業の委託先及び相談支援包括化推進員も参加。</li> </ul> |
|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

#### ⑤ 愛知県豊明市

|                   |                                                                                                                                                                                                                      |
|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 研修参加前までの主な取組と課題認識 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ほぼ毎週社協と打合せをしていた。社協には多機関協働と地域づくりを委託している。</li> <li>・ 重層事業での取組がまだ地域に浸透していない。</li> <li>・ 障害分野では本人同意が必要なため、どう他の分野と接続するかは課題であった。</li> </ul>                                       |
| 研修の成果と要因          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修前から社協とはほぼ毎週打合せを持っており、月に 1 回ケース会議も実施していたので、研修の課題も普段の打合せの延長線上という認識だった。実践演習も、これからやろうとしていることの確認として取り組むことができた。</li> <li>・ 研修をきっかけに他の市町村から社協に視察の問合せがあり、社協にとって刺激になった。</li> </ul> |
| 研修の参加体制           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当課、社協</li> </ul>                                                                                                                                                           |

#### (2) 結果まとめ

ヒアリングの結果、令和 4 年度国研修を活かすべきポイントと対象とする市町村像を整理した。また、ヒアリング調査の結果をもとに検討委員会において、研修プログラムのカリキュラムを「包括的な支援体制構築に向けた実践型プログラム（チームづくり編）」として整理した（カリキュラムの詳細は本章「2」を参照）。

##### ① 研修を通してチームビルディングができたと思うと回答した市町村の成果と「研修の良かった点」

● 主な成果

- ・ 継続的に話し合えるつながりが生まれた
- ・ 関係者の声を聞きながら取組を検討するプロセスを採り入れた
- ・ 枠組みの整備ではなく本人の暮らしを支えるという目的意識が共有できた
- ・ 思い切ったアクションをとれた（連携のハードルを感じていた相手へのアプローチ）

● 研修の良かった点

- ・ 連携のもやもやを共有したこと（相互理解が進んだ）
- ・ 個別ケースから検討したこと（具体的な検討につながった）
- ・ 他市町村の取組を知れたこと（取り組み方のヒントを得た）

② 研修を通してチームビルディングができたと思わないとの回答者がいた市町村による「その要因」

- ・ もともと毎週のように関係者間で協議していた
- ・ 個別ケース起点で考える共通認識があった
- ・ 行政職員と委託先の認識ギャップ（行政はポジティブな回答だったが委託先がネガティブな回答）

③ 結果を踏まえた研修プログラムの要件

- ・ 連携のもやもやの共有、個別ケースから検討する観点は活かせる
- ・ 他市町村の取組は、人口規模や検討フェーズ等で整理する必要がある
- ・ 対象とする市町村は、そもそもコアメンバーの協力体制ができていないところ
- ・ （コアメンバーとは主に庁内各分野の担当者や重層関連事業の委託先等を想定）

④ 研修プログラムの対象とする市町村

これから核となる関係者との協力体制をつくっていく必要がある市町村において、重層事業担当者がモデルを活用して地域で実践することが想定される。主に対象とする市町村は以下の通り。

- ・ これから重層事業の検討または準備をする市町村
- ・ 重層事業実施にあたり枠組みはつくったが具体的な連携が進まないと感じる市町村

## 2. 包括的な支援体制構築に向けた実践型プログラム（チームづくり編）

本カリキュラムは、プログラムの実施を検討する市町村の事務局の役割を担い得る担当者向けに作成している。事務局担当者は本カリキュラムを一読したうえでプログラムの実施要否や実施内容・方法を検討していただきたい。

なお、別添に本カリキュラムを実施する際に活用できるパワーポイント形式のスライド資料のひな形を添付している。各市町村の実施内容・方法に応じて、パワーポイントを自由に改変のうえ活用していただきたい。

### 1) プログラム全体像

#### (1) プログラムが必要とされる背景

- 重層的支援体制整備事業（以下「重層事業」という。）とは、本来、各事業（相談支援、参加支援、地域づくり、アウトリーチ等を通じた継続的支援、多機関協働）を一体的に実施することにより、地域生活課題を抱える地域住民及びその世帯に対する支援体制並びに地域住民等による地域福祉の推進のために必要な環境を一体的かつ重層的に整備する事業です。
- しかし、市町村においては関係者との認識合わせや連携に苦勞するといった声や、事業の目的が不明確だったり、実施に負担感を感じているといった声が多く聞かれています。その背景には、各事業をいかに実施するかという観点で体制や枠組みを検討してしまい、連携や協働が必要とされる地域生活課題が関係者間で共有されていなかったり、関係者との対話が不十分であることが要因として挙げられます。
- そこで、各分野の縦割りを超えて住民ニーズに応えるという重層事業が導入された背景に立ち返り、市町村と地域の支援関係機関等が、わがまちのあるべき支援体制やそのための各機関の連携・協働のあり方、それを実現する仕組みなどについて、考え方や進め方などを共有しながら対話をし、実際の取組に移していくプロセスを丁寧に行っていくことを支援するために本プログラムを作成しました。

#### (2) プログラムの目的

- わがまちで連携・協働が必要な具体的なケースを確認しながら、わがまちに必要な体制や取組を検討する
- その過程を通して、各関係者との協力体制を構築する

#### (3) プログラムが対象とする市町村像

- これから重層事業の実施を検討している、または、重層事業は実施せずとも包括的な支援体制の構築が必要と考えている市町村
- 重層事業の移行準備中または実施中であり、枠組みや会議体は作ったものの、具体的な関係機関の連携・協働まで進んでいないと感じている市町村

#### (4) プログラム実施により期待される効果（到達目標）

- 庁内外の主要な関係者とのチームビルディング（特に、包括的な支援体制の構築にあたって中心的な役割を担う担当者、重層事業の枠組み等を検討する担当者、分野別事業の担当者、委託事業者の担当者等の関係者間の顔の見える関係や主体的な連携が図られる関係づくり）
- 参加者が包括的な支援体制及び重層事業の必要性について“腹落ち”している
- わがまちで起きている問題や活かそうな取組等を地域共生社会の理念とともに自分の言葉で語れる
- 包括的な支援体制の構築に向けてわがまちで取り組むことの具体化（プログラム終了後に参加メンバーと協力して取り組みたい施策や構築していきたい仕組みのアイデアを見出す）

#### (5) 想定されるプログラム事務局担当者

- 包括的な支援体制の構築にあたって中心的な役割を担う部課室・担当者
- 重層事業の検討を任された部課室・担当者
- 地域づくりに関するワークショップ等の企画やファシリテーションの経験者（主管部署のメンバーでプログラムの設計やファシリテーションの経験や自信がない場合は、庁内外の経験者に事務局として入ってもらうことも検討する）

#### (6) 想定される参加者

- わがまちの包括的な支援のあり方やそのために取り組むべきことを検討する庁内外関係者（個別ケースごとに必要な連携先というよりも、体制や仕組みを一緒に検討していくメンバー）
- 庁内：包括的な支援体制の構築にあたって中心的な役割を担う担当者、重層事業の枠組みを検討する担当者、分野別事業の担当者、庁内の企画調整担当者（企画課・総務課など）など  
※福祉分野以外の関係者との連携を強化したい等の意図がある場合には、実際に連携の必要性が出てきている部門の担当者等も招集する。
- 庁外：委託事業者の現場責任者やリーダーなど
- 参加メンバーは、最初に決めて最後まで全員でやり切ることが理想だが、メンバーの業務状況や相性など、様々な事情を鑑みながらメンバーの追加や交代など、柔軟に対応する視点も持つ。

#### (7) 想定されるプログラムの活用方法

本プログラムは、包括的な支援体制構築に求められるプロセス（過程）の一部を研修プログラム化したものです。本プログラムを実施することによって、関係者との対話を通じた地域生活課題を踏まえた包括的な支援体制の構築が進むことを想定しています。

市町村においては、包括的な支援体制の構築を進める一つのツールとして本プログラムの活用を検討してください。特に各 Step の事前準備の過程で、連携が必要なケースの事前調査等を通して重層事業や包括的な支援体制構築に取り組む理由を確認したり、体制構築に向けて協力していくメンバーとの検討を通して、チームビルディングを図ることを想定しています。

そして最終的には、市町村で包括的な支援体制の構築に向けて取り組みたいことを見出し、その実現に向けた

実行プランをつくることを目指した内容となっています。例えば、関係者との対話を通じて、会議体のあり方、情報連携のフローや様式の検討、研修等を企画し、実現していくための実行プラン（実施事項、スケジュール、役割分担等）を作成するために活用してみてください。

本プログラムは市町村において 1 度だけでなく何度も実施できるような枠組みとなっており、各市町村の包括的な支援体制構築の段階や状況に応じて柔軟に活用することができます。

例えば福祉 4 分野の主要メンバーだけでプログラムを実践して今後の取組アイデアを検討するという使い方であれば、福祉部局以外との連携が必要なケースを取り上げることで福祉部局以外の関係者との課題認識の共有や連携体制構築に役立てるという使い方もあります。また、「やってしまった」と思うような失敗事例を取り上げ、どうすればそうした事態を防ぐことができるかを検討する場面でも活用することが考えられます。

包括的な支援体制構築の状況、関係者との連携状況を踏まえ、本プログラムの内容をすべて完遂することが難しそうだと感じたらまずは Step1 だけ試してみて、関係者との継続対話の必要性が共有されれば Step2 以降を進めるといった活用をしてもかまいません。

## (8) 主な内容と必要な期間

- 事前準備（1～2 か月）
  - ・ 事務局を設置する
  - ・ 連携して対応すべきケースを把握する
  - ・ プログラムを設計する
  - ・ 参加メンバーを編成する
- プログラム（1～3 か月）

| Step | 形式 | 内容                                                                                                                                                                                                                                               |
|------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1    | 集合 | <b>キックオフ／わがまちの連携・協働を振り返る（2.5～3 時間程度）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 包括的な支援体制の構築に向けた連携・協働について理解を深める</li> <li>・ わがまちの連携・協働を振り返る</li> </ul>                                                                                           |
| 2    | 集合 | <b>包括的な支援体制構築のための取組アイデアを出す（3 時間程度）</b> <p>※メンバーの時間確保ができるようなら Step1 と同日に実施することも可能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連携が必要な個別ケースを共有する</li> <li>・ 個別ケースをもとにわがまちの強みや課題を確認し、取組アイデアを出す</li> <li>・ アイデアの妥当性や実現性を確認するためのアクションを検討する</li> </ul> |
| 3    | 集合 | <b>取組アイデアの実行プランをつくる（2～3 時間程度）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Step3 以降の各自のアクションを共有する</li> <li>・ 今後の取組アイデアの企画を具体化する</li> </ul>                                                                                                       |

## 2) 事務局による事前準備

|      |                                                                                                                                                                              |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 目的   | <ul style="list-style-type: none"> <li>事務局担当者が重層の意義やポイントを理解する。</li> <li>わがまちの状態を整理し、この研修が使えるかを判断する。</li> <li>担当者・課がこの研修を使って何を成し遂げたいか、そのために誰にどのように参加してもらうかの戦略を立てる。</li> </ul> |
| 所要時間 | <ul style="list-style-type: none"> <li>1～2 か月程度</li> </ul>                                                                                                                   |
| 資料   | <ul style="list-style-type: none"> <li>事前準備用ワークシート（要作成：重層事業に取り組む目的・理由、コアメンバー書き出し）</li> </ul>                                                                                 |
| 実施内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>事務局を設置する</li> <li>連携して対応すべきケースを把握する</li> <li>プログラムを設計する</li> <li>参加メンバーを編成する</li> </ul>                                               |

### 実施内容

#### (1) 事務局を設置する

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 何をやるか  | <ul style="list-style-type: none"> <li>プログラムを企画・運営する事務局メンバーを選定する。</li> <li>事務局担当者は過去の国研修の動画や資料を確認し、地域共生社会の理念、包括的な支援体制の構築及び重層事業の基本的な考え方について理解をする。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| なぜやるか  | <ul style="list-style-type: none"> <li>プログラムによって成果を得るためには、事務局機能が重要です。まずは事務局メンバーがこのプログラムを設計するため、重層事業の基本的な考え方への理解を深めることから始めます。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 資料・ツール | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域共生社会の実現に向けた重層的支援体制整備事業について（厚生労働省）<br/>動画：<a href="https://youtu.be/qttD2e12McQ?si=81503M8c0WFMiwoH">https://youtu.be/qttD2e12McQ?si=81503M8c0WFMiwoH</a><br/>資料：<a href="https://www.mhlw.go.jp/content/001170939.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/001170939.pdf</a></li> <li>重層的支援体制整備事業を検討することになった人に向けたガイドブック・重層的支援体制整備事業を始めてみたけどなんだかうまくいかない人に向けたガイドブック（三菱UFJリサーチ&amp;コンサルティング）<br/><a href="https://www.mhlw.go.jp/content/zyuso_guidebook-R5.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/zyuso_guidebook-R5.pdf</a></li> </ul> |

#### (2) 連携して対応すべきケースを把握する

|       |                                                                                                                                  |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 何をやるか | <ul style="list-style-type: none"> <li>実際にケース対応をしている福祉4部門で相談支援に対応している担当者に聞き取り調査をし、連携が必要な事例や連携における現場の課題感を把握する。</li> </ul>         |
| なぜやるか | <ul style="list-style-type: none"> <li>包括的な支援体制を構築していくために必要な取組を検討していくためには、わがまちで実際にある、連携して対応すべき個別ケースへの理解を深めることが必要です。理念</li> </ul> |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | <p>をもとに仕組みや体制を構築していただだけでは、対話や合意形成が不十分となり、現場のニーズとずれてしまったり、仕組みがうまく機能しないということが起こります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係者との対話を深め、合意形成をしていくためには、まずはわがまちで実際に起きている事例や連携においてどんな問題が起こっているか（起り得るか）を把握し、その事実を起点としながら必要な連携のあり方を検討していくことが重要です。</li> <li>・ 本プログラムで納得感のあるゴールを設定しメンバーを招集する上でも、そうした現状を事務局として把握し、問題意識とともに本プログラムを実施する意義を自分の言葉で語れるように準備しましょう。</li> </ul> |
| 資料・ツール | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なし</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

### (3) プログラムを設計する

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 何をやるか  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本プログラムの基本設計として、プログラムにより達成したいゴール、メンバー、具体的な工程、スケジュールを検討する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                   |
| なぜやるか  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加メンバーがプログラムの趣旨に賛同し積極的に参加してもらうためには、事務局としての問題意識や意図がしっかりと伝わる大切です。</li> <li>・ そのため、なぜ本プログラムを実施したいのか、事務局としての問題意識とともに、本プログラムで何を達成したいのかまたはどのような状態になりたいのか、といったゴール設定や問題意識に対応していくために必要なメンバー、スケジュールを検討します。</li> <li>・ 事務局は、本プログラムの内容や資料を一通り確認し、必要な期間や参加メンバーに確保してほしい時間について検討しておきましょう。</li> </ul> |
| 資料・ツール | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前準備用ワークシート（重層事業に取り組む目的・理由、コアメンバー書き出し）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                     |

### (4) 参加メンバーを編成する

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 何をやるか | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福祉 4 分野の行政担当や相談機関等委託先の実務リーダー、福祉分野以外の行政担当者等から参加メンバーを選出する。まずは包括的な支援の実現に向けた仕組みや体制と一緒に考えていくコアメンバーを中心に選出する。市町村の状況や段階に応じて、関係部門を広げる。</li> <li>・ 参加メンバーへの声掛けとともに、上長に根回しをする。事務局としての問題意識やプログラムの目的・ゴール、参加メンバー候補、スケジュール、参加メンバーの役割や確保してほしい時間を説明し、協力を得る。</li> <li>・ 現場のメンバーと顔の見える関係ができていない場合は、各組織長等に参加メンバーを選出してもらう。</li> </ul> |
| なぜやるか | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 包括的な支援体制の構築にあたり庁内外の仲間・チームをつくっていく視点が非常に重要です。本プログラムを実施することでチームづくりを目指していく一方、初めから関係機関をリストアップして大所帯で実施すると、コミュニケーションの密度が低くなり相互理解や</li> </ul>                                                                                                                                                                            |

対話が不十分になってしまう可能性もあります。まずはコアメンバーだけで実施して意識を合わせ、参加メンバーを増やして再度プログラムを実施するなど、徐々に仲間やチームを広げていく視点も持って、参加メンバーを編成しましょう。

- ・ 参加メンバーの主体的な参加のためには、本人の意欲と所属する組織の理解が必要不可欠です。
- ・ 資料やメールで依頼するだけでなく、メンバー候補（本人）と所属する組織長にプログラムの趣旨を対面で説明し、賛同してもらうことが重要です。
- ・ 包括的な支援体制構築の取組が初期段階であれば、まずは福祉4分野を中心にメンバー招集していきましょう（検討に積極的に関わってくれそうな部門や担当者を選出するのも一つの手です）。他分野のメンバーとのチームづくりをしていきたい場合は、連携が求められるケースがあり、そうしたケースを中心にプログラム内で取り扱われないと、自分事になりにくいため留意しましょう。

資料・  
ツール

- ・ なし

### 3) Step1 : キックオフ／わがまちの連携・協働を振り返る

|           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 目的        | <ul style="list-style-type: none"> <li>メンバー間で「連携・協働」の考え方の共通認識を持つ。</li> <li>わがまちの連携を振り返り、メンバー同士がお互いに考えていることや見ている景色を共有する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                       |
| 所要時間      | <ul style="list-style-type: none"> <li>2.5 時間～3 時間程度（参加人数に応じて調整）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 資料        | <ul style="list-style-type: none"> <li>事務局資料</li> <li>事務局資料内の各ワークシート ※ワークで使うためのブランク（空欄）のものを用意</li> <li>連携・協働について理解するための教材</li> </ul>                                                                                                                                                                                                     |
| 事務局の事前準備  | <ul style="list-style-type: none"> <li>2) の「事務局による事前準備」に記載の通り。</li> <li>本プログラムの趣旨説明の際に問題意識を共有するうえで必要な資料を用意する。例えば、地域の現状や見通しがわかる資料（人口・世帯推計（年代別推計）、相談件数推移、生活保護件数推移など地域福祉計画に掲載されているような基礎情報等）。</li> </ul>                                                                                                                                     |
| メンバーの事前準備 | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域共生社会の実現に向けた重層的支援体制整備事業について（厚生労働省）の動画を視聴しておく。<br/>動画：<a href="https://youtu.be/qttID2e12McQ?si=815O3M8c0WFMiwoH">https://youtu.be/qttID2e12McQ?si=815O3M8c0WFMiwoH</a><br/>資料：<a href="https://www.mhlw.go.jp/content/001170939.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/001170939.pdf</a></li> </ul> |

#### 実施内容

##### (1) オープニング

|        |                                                                                                                                                                                                          |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 何をやるか  | <ul style="list-style-type: none"> <li>プログラムの趣旨（目的・ゴール・進め方・スケジュール）を事務局から説明し、質疑を交えながら認識合わせをする。</li> <li>メンバー同士の自己紹介をする。</li> </ul>                                                                        |
| 形式・時間  | <ul style="list-style-type: none"> <li>対話（1 人 1 分程度）</li> </ul>                                                                                                                                          |
| なぜやるか  | <ul style="list-style-type: none"> <li>これから一緒にプログラムを進めていくにあたり、メンバー同士がそれぞれの所属や日ごろの業務、専門性を知っておくことで、誰に何を頼ることができそうなのか、どんな風に頼るとよさそうかを知ることが大切です。</li> <li>メンバー同士がそれぞれを知っておくことで、今後の対話や実践の活性化につながります。</li> </ul> |
| 到達目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>メンバー同士（事務局含む）が、それぞれの立場や専門性等、何かしらを知っている。</li> <li>メンバーがリラックスした気持ちで参加できる、和やかな雰囲気ができる。</li> </ul>                                                                    |
| 資料・ツール | <ul style="list-style-type: none"> <li>事務局資料 1 – ①p 3 ～p 5</li> </ul>                                                                                                                                    |

## (2) 包括的な支援体制の構築に向けた連携・協働について理解を深める

### 何をやるか

- ・ 連携・協働の基本的な考え方について、動画教材と一緒に視聴する。または、事務局担当者が講師となり説明する。
- ・ 参加メンバーの日程をあわせることが難しい場合は、各々に動画を視聴してもらうことも可能。

### 形式・時間

- ・ 動画視聴（65 分）

### なぜやるか

- ・ 連携や協働という言葉はよく使われますが、抽象的な概念なので関係者同士が違ったイメージを持っていたり、そのためにかみ合わなかったりすることがあります。そのため、連携・協働の基本的な考え方の認識合わせをし、共通言語を持つことが大切です。
- ・ また、この後の工程でわがまちの連携・協働を振り返る際に、参加メンバー同士が気を使って言いにくいことをなかなか言い出せなかったり、核心に迫れなかったりすることが想定されます。ここで紹介する動画では、現場の専門職が日ごろ感じている連携における課題を共有するので、参加メンバーとしても思い当たることや共感することとして発言しやすくなります。

### 到達目標

- ・ 連携における課題への理解を深める。連携にあたって求められる姿勢や作法を理解する。

### 資料・ツール

- ・ 包括的な支援体制の構築に向けた連携や課題について理解を深める  
動画 イン트로ダクション（7:43～12:51）：  
[https://youtu.be/Z4jWPjcTx\\_4?si=YfTuurXKKE1iy\\_WY](https://youtu.be/Z4jWPjcTx_4?si=YfTuurXKKE1iy_WY)  
動画 トークセッション（0:00～46:05）  
[https://youtu.be/5Xr6\\_1nTbFM?si=aVNLXN7VCyxLVCFd](https://youtu.be/5Xr6_1nTbFM?si=aVNLXN7VCyxLVCFd)
- ・ 「連携」と「協働」について（Optim's-pt 代表 上原久先生講義資料）  
動画（0:00～11:47）：  
<https://youtu.be/gbEgKW3tp8g?si=nBVTn6eli69-5cf9>  
資料：<https://www.mhlw.go.jp/content/001006501.pdf>

## (3) わがまちの連携・協働を振り返る

### 何をやるか

- ・ これまでに参加メンバーが体験した「困った連携」「良かった連携」を共有する。なぜ「困った連携」「良かった連携」が起こったのか、思い当たる理由をあわせて共有する。

### 形式

- ・ 対話（60 分）

### なぜやるか

- ・ 連携にあたっては、相手の立場に立った姿勢や言動が大切です。連携にストレスを感じる原因として、関係者間の専門性や価値観の違いや自分の思い込み（バイアス）があることが考えられます。それぞれがどのような価値観やものの見方をしているのか、相手が見ている景色を理解することで、無用なストレスを減らし、相手の立場に立ったものの見方ができるようになります。

|        |                                                                                                                                                                                                               |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | <ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な連携課題を洗い出すことだけに終始せず、それぞれの価値観や考え方などの多様性を認め理解することを大切にできるよう事務局がガイドしましょう。</li> </ul>                                                                                    |
| 到達目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>連携におけるもやもやした気持ちが共有される。</li> <li>メンバーや関係者の見ている景色について、自分との違いを発見し、理解しようとする。</li> </ul>                                                                                    |
| 資料・ツール | <ul style="list-style-type: none"> <li>事務局資料①p 8～p 9</li> <li>(参考資料) 連携の“もやもや”集 (概要)<br/> <a href="https://www.mhlw.go.jp/content/001005412.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/001005412.pdf</a> </li> </ul> |

#### (4) Step2 に向けた準備

|        |                                                                                                                                                                                                            |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 何をやるか  | <ul style="list-style-type: none"> <li>Step2 の趣旨と事前準備として必要なことについて説明する。</li> <li>役割分担（誰がどんな個別ケースを持ち寄るか等）を決める。</li> </ul>                                                                                    |
| 形式・時間  | <ul style="list-style-type: none"> <li>ワーク（30 分）</li> </ul>                                                                                                                                                |
| なぜやるか  | <ul style="list-style-type: none"> <li>Step2 ではわがまちの実際の個別ケースをもとに連携・協働における機会や課題を考え、具体的な取組アイデアを考えます。</li> <li>Step2 には個別ケースの提供が必要不可欠なので、事前に Step2 の内容について共通認識を持ち、個別ケースの情報提供や準備に協力してもらえ体制をつくりましょう。</li> </ul> |
| 到達目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>Step2 に向けて、参加者が自身の役割を理解している。</li> </ul>                                                                                                                             |
| 資料・ツール | <ul style="list-style-type: none"> <li>事務局資料 1 – ①p10～p16</li> <li>Step2 に向けた準備シート</li> </ul>                                                                                                              |

#### ワークシート例

#### Step2 に向けて作成するケース検討シート例

| ケーススタディの題材とする個別事例の情報                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 対象者の概要                                                                                                                                                                                                                           | 当初の状況                                                                                                                                                                                                                                                                      | 支援の経過・結果                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>対象者：Aさん、50代、男性</li> <li>80代の母親、50代の弟と同居。Aさん、弟ともに就労しておらず、母親の年金収入のみで生活を送る。</li> <li>月約14万円程の収入である。</li> <li>コロナの影響を受けて3年半程前に仕事を辞め、昨年夏ごろから自身の部屋に引きこもる状態が続いている。</li> <li>めまい等の症状有。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>母親が体調不良となり入院したことをきっかけに、生活に漠然と不安を抱えたAさんは親族へ相談。親族から民生委員へ相談が入った。</li> <li>退院し自宅にて生活を送るようになった母親だが、介助が必要な状況であり、主にAさんが母親の介護、家事を担っていた。</li> <li>Aさんの弟は債務を抱えていた。</li> <li>母親は生活保護受給を考へるも、Aさんは生活保護受給に抵抗があり、手続きが進まなかった。</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>母親が適切な介護サービスを受ける必要があると判断<br/>→ 地域包括支援センターと連携を図る。<br/>→ 介護認定を受け、介護サービスの利用開始。<br/>→ Aさんの介助負担の軽減につながった。</li> <li>Aさんと弟は就労意欲があり、自立した生活を送ってきたいとの意向を確認。併せて弟は債務整理をする必要があると判断。<br/>→ 自立相談支援機関と連携を図る。<br/>→ 就労及び債務整理に向けた支援を開始。<br/>→ Aさん、弟ともに就労を開始した。</li> </ul> |
| 上記の個別事例に対してチームで検討しよう                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 内容                                                                                                                                                                                                                               | その要因や理由                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| うまく連携できたと思うこと                                                                                                                                                                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>「民生委員」が普段から着実に地域福祉活動を行い、地域住民に存在が認識されるとともに信頼を得ていた。</li> <li>「多機関協働事業者」の取組が、地縁組織（民生委員）に浸透しつつある。</li> <li>「多機関協働事業者」の適切なアセスメント及び「地域包括支援センター」「自立相談支援機関」を含め、本世帯の支援に係る役割分担や連携体制の構築が適切に行われていた。</li> </ul>                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| うまく連携できなかったことや、あったらよかったと思うこと・機能                                                                                                                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>母親の体調不良や入院がなければ、今回の支援に繋がらなかったのではないかと、もっと早い段階で、本人たちが自分たちの置かれている状況を認識して、より良い生活に向け考えるきっかけが持てればよかった。</li> <li>地域で自由参加の「生活相談会」のようなものが開催されていたとしても、このケースはおそらく参加していなかったのではないかと、このことから、支援者側から「何か困ったことはありませんか」問いかけられる仕組みがあったらよかった。</li> </ul> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

#### 4) Step2 : 包括的な支援体制構築のための取組アイデアを出す

|               |                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 目的            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別ケースを踏まえてわがまちの強み・課題を確認する。</li> <li>・ 包括的な支援体制構築のための取組アイデアを出す。</li> <li>・ 取組アイデアの妥当性・実現性を確認するためのアクションプランを立てる。</li> </ul>                                                                                                   |
| 所要時間          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 時間程度（人数に応じて調整）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                |
| 資料            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ケース検討シート</li> <li>・ わがまちの強み・課題検討シート</li> </ul>                                                                                                                                                                             |
| 事務局の<br>事前準備  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前に参加者からケース候補を収集し、当日にどのケースを取り上げるかを事務局が検討する。その際、2) の「事務局による事前準備」で聞き取りした内容を踏まえて、取り組むべき連携課題が話題となるように選定する。</li> <li>・ 扱うケースについて、情報提供者に詳細の確認を行い、目的を踏まえて必要に応じて追加情報の提供を依頼する。</li> <li>・ 検討するケースの情報（シート等）を事前にメンバーに共有する。</li> </ul> |
| メンバーの<br>事前準備 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検討するケースを事前に確認しておく。</li> </ul>                                                                                                                                                                                              |
| 留意事項          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ メンバーの時間を確保できれば、Step1 と同日に実施することができる内容です。</li> </ul>                                                                                                                                                                        |

#### 実施内容

##### (1) オープニング

|            |                                                                                                                                             |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 何をやるか      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加メンバーの今の気持ちを共有する（チェックイン）。</li> </ul>                                                              |
| 形式・時間      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各自発表（1 人 30 秒）</li> </ul>                                                                          |
| なぜやるか      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自ら発言することでこの場への参加意識を高めます。</li> <li>・ また、全メンバーの今の気持ち（期待や不安）を知ることで当日の進行に役立つ情報が得られるかもしれません。</li> </ul> |
| 到達目標       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ メンバーの参加意識が高まる。肩の力を抜く、和やかな雰囲気ができる。</li> </ul>                                                       |
| 資料・<br>ツール | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なし</li> </ul>                                                                                      |

##### (2) 連携が必要な個別ケースを共有する

|       |                                                                                                                 |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 何をやるか | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多分野の関係機関・関係者との連携が必要と思われるケースを共有する。</li> </ul>                           |
| 形式・時間 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワーク（1 ケース約 10 分×ケース数）</li> </ul>                                       |
| なぜやるか | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 包括的な支援体制の構築は、わがまちの実情にあった必要な取組を関係者との合意のもとに積み上げていき、実現されるものです。</li> </ul> |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | <ul style="list-style-type: none"> <li>関係者と合意していくために重要なのは、連携が必要な個別ケースの実態や連携にあたり実際に起きている課題が共有されていることです。そうした根拠に基づく取組でなければ、何のための仕組みや取組なのかは理解されませんし、本当に必要な仕組みかどうかわかりません。そのため、包括的な支援体制の構築に向けた取組は個別ケースを起点に考えることが基本的な原則と言えます。</li> <li>この後の工程でわがまちの強み・課題の棚卸しや取組アイデアを検討していくための基盤となるよう、連携が必要などのようなケースがあるのか、どのような連携課題があるのかを参加メンバーと共に確認しましょう。</li> </ul> |
| 到達目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>わがまちで連携・協働が必要なケースを知る。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 資料・ツール | <ul style="list-style-type: none"> <li>メンバーが事前に用意したケース検討シート</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                        |

### (3) 個別ケースをもとにわがまちの強みや課題を確認し、取組アイデアを出す

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 何をやるか  | <ul style="list-style-type: none"> <li>本人本位の包括的な支援を実現するうえで、わがまちの強みと課題を確認する。</li> <li>強みを活かす、課題を克服するという視点で、関係者のより良い連携・協働のために取組みたいことのアアイデアを出す。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 形式・時間  | <ul style="list-style-type: none"> <li>ワーク（100 分程度）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| なぜやるか  | <ul style="list-style-type: none"> <li>重層事業は困難ケースを解決するための「打ち出の小槌」ではなく、個別ケースをもとに、わがまちの強み弱みを認識して必要な対応を積み重ねていくものです。ここではその一連の流れを参加メンバーと共に体感・共有し、関係者とのより良い連携・協働のために必要な取組や体制の企画につなげていきます。</li> <li>行政の縦割りについて否定的な意見が出がちですが、縦割りであることで各分野の専門性や資源を集約できるメリットもあります。庁内の各部門或いは庁外の関係機関の得意なことや強み（制度で解決できることだけでなく、持っている情報や地域とのネットワーク等も含む）にも着目し、組織同士の壁を取り除くのではなく低くしながら各強みを活かす視点で考えてみましょう。</li> <li>いきなり全体でアイデア出しをするのではなく、まずは 5 分程度の個人ワークで付箋にたくさんアイデアを書き出し、みなで共有しながらアイデアをふくらませるといった進め方も検討してみましょう。</li> </ul> |
| 到達目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>ケースに根差した取組アイデアが複数挙がる、そのアイデアの必要性についてメンバー間で共有されている。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 資料・ツール | <ul style="list-style-type: none"> <li>事務局資料 1 - ②p 8 ～p10</li> <li>わがまちの強み・課題検討シート</li> <li>ホワイトボードまたは模造紙・付箋・ペン</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

#### (4) アイデアの妥当性や実現性を確認するためのアクションを検討する

##### 何をやるか

- ・ 取組アイデアの優先順位を検討し、アイデアの妥当性・実現性や優先順位を確認するためにさらに調査すべきことを検討する（関係者へのヒアリング、検討材料となる資料の確認等）。
- ・ Step3 に向けてやることを洗い出し、役割分担を決める。

##### 形式・時間

- ・ ワーク（30 分）

##### なぜやるか

- ・ 参加メンバーだけで考えた取組アイデアが、そこに参加していない関係者にとって納得できるものでなければ、賛同や協力を得ることができません。参加メンバーと考えた取組アイデアのうち優先度が高そうなものを絞り込み、ここに参加していない関係者の意見を聞いてみる大切です。
- ・ 取組アイデアは、関係者の問題意識に基づくものであればどんなものでも構いませんが、小さな成功体験を積み重ねることが大切です。あまりに壮大なものや時間がかかりそうなもの・難しそうなものよりも、重要かつ実現できそうなものを挙げると良いでしょう。例えば過去の研修では、庁内向け研修、会議の際のグランドルールの整備、情報共有の様式作成、重層会議の試行、福祉現場ツアーなどが企画されました。

##### 到達目標

- ・ 取組アイデアが妥当か、実現可能かを確認するために、誰と何を確認・対話をすべきかが具体的にイメージできている。
- ・ Step3 に向けてそれぞれの役割やスケジュールが明確になっている。

##### 資料・ ツール

- ・ 事務局資料 1 – ②p11～p14
- ・ 取組アイデア検討シート
- ・ Step3 に向けた準備シート

## ワークシート例

### わがまちの強み・課題検討シート

| 場面・フェーズ               | 当事者にとって望ましい支援を実現するために・・・                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | ③取り組むべき・取り組みたいこと                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                       | ①できていると思うこと<br>（「偶然・時々」できていることもOK！）                                                                                                                                                                                                                                                                        | ②できたらよい・あったらよいと思うこと                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 対象者の状況把握              | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域包括支援センターは地域のつながりが比較密であり（フェーズ「地域等とのつながり」の欄を参照）、本人等からの相談だけでなく、地域からの支援が必要な者に関する情報などに基づくアウトリーチ支援等を含め必要のアプローチが比較的できている。</li> <li>専門機関同士では、相談者の主訴を慎重に聞き取り、必要に応じ他機関に繋ぐことが一定程度できている。</li> <li>支援を希望する意思があれば、本人の困りごとの主訴が明確でなくても、専門職や関係機関間の連携により、課題の整理を行うことができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>障害者相談支援事業者や自立相談支援機関については、左記の地域包括支援センターと同等の支援を行うことが難しいが（フェーズ「地域等とのつながり」の欄を参照）、体制の強化又は多機関との連携の中で、少しでも対応の幅が広がれば良い。</li> <li>専門的なアセスメントではなく、相談者のその場の訴えだけでなく、困りごとを聞き取ろうとする意識を持ってもらえたら良い。</li> <li>支援を拒否する者を発見したときこそ、介入を諦めるのではなく、多機関が協力し情報収集に務め、解決の糸口の模索又は時が来たときに円滑に支援ができるよう準備ができるようになれば良い。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>アウトリーチ等事業及び多機関協働事業の実施により、地域住民からの気になるケースの情報に基づくアウトリーチ支援や多機関連携による支援体制を構築している。</li> <li>今後各相談支援事業者とアウトリーチ等事業及び多機関協働事業実施者の役割や連携体制（相談の入口から出口までのフロー等）を地域住民や支援関係機関と正しく共有し、多くの人が相談しやすく、また各機関が円滑に協働し合える体制を確立していく。</li> <li>相談センター等を設置しても、市庁舎に相談に来る者が一定程度いることを踏まえ、福祉分野に異動してきた職員に対し、「聞く」ことについての共通研修の実施を検討する。</li> </ul> |
| 支援関係機関における連携と自律に向けた支援 | <ul style="list-style-type: none"> <li>同じ分野の支援機関同士では、一定程度の信頼関係を築きながら支援を行っている。</li> <li>対象者の生活の安定という観点では、関係者間で連携した支援が概ね実施できていると思う。</li> </ul>                                                                                                                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>他分野の支援機関との関係については、互いに制度がよくわからない＋共通の言語がない等の理由で円滑な連携の難しさは当然あるが、連携を取ろうとすることを認めるようなことがなると良い。</li> <li>対象者の生活が安定した上で、さらにその人にとってのより良い生活（趣味や活動への参加）の実現についても、社会資源の有効活用や新たな開発について、関係者間で連携した支援ができると良い。</li> <li>保健所（精神保健担当部署）との情報交換や支援における連携が積極的になると良い。</li> </ul>                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>各支援主体が、自身の分野だけではなく、他分野の事業所と協力することのハードルが下がっていくよう、草の根的に個別ケースを通じた実績の積み上げや好事例の共有等を実施していく。</li> <li>新たに開始した参加支援事業では、個々のケースにとって適当な社会資源がないことも多く、各福祉分野の社会参加の場の情報整理や企業や就労相談窓口との連携強化に取組むべき。</li> <li>保健所（精神保健担当部署）から支援に係るアドバイスを受けるという形で徐々に協力体制を築いていく。</li> </ul>                                                       |
| 地域等とのつながり             | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域包括支援センターは市内に●●箇所あり、地域にとって身近な相談支援機関である。また介護予防等に関する取組を通して、地域のつながりが日常的に保たれている。</li> <li>地域包括支援センターや福祉専門職、民生委員や地区ごとにある社会福祉協議会等の地域福祉の担い手がまちづくりの会議に参画している。</li> </ul>                                                                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>障害者相談支援事業者や自立相談支援機関は市内に一つしかない。市内の全ての地域において、左記と同等のつながりを持って地域づくりに係る活動を行うことは難しい状況にある。</li> <li>地域との交流を拒否している者や、複数の福祉的課題を抱える者を地域において発見した場合、つなぎ先の相談機関がわからないことがあるので、これらの相談を受け止められる機関があると良い。</li> </ul>                                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域等とのつながりの強化は、地域から気になるケースの情報提供を受けたり、ケース支援時に活用しうる社会資源の幅を広げることとなるので、今後も積極的に取組んでいく。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                  |
| 継続的な支援                | <ul style="list-style-type: none"> <li>相談受理の後、対象者の課題が解決するまでは、当該相談機関において継続的に適切な対応が実施されている。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>対象者の課題解決について概ねの目処がたち、当該相談機関における支援が終結した（又は支援を別の機関に引き継いだ）後も、本人がまた困ったときに支援の声を発することができるよう、関係性が維持されていることが理想。</li> <li>介入を拒否するケースや課題がされない状態のケースについて、解決を急がず粘り強く伴走的支持的支援を行っていく意識を多部署・多機関で共有できれば良い。</li> </ul>                                                                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>多機関協働事業の終結は慎重に判断するとともに、終結時においては対象者が再び支援が必要になったときの「つなぎ直し」を想定し、対象者と繋がりのある機関間で以後の関わりについて整理・共有することが重要であると考えます。</li> <li>アウトリーチ支援事業の好事例等を他分野の福祉事業所で共有する。</li> </ul>                                                                                                                                               |

### 取組アイデア検討シート

| （１）最初に取り組みたいアイデアとその理由                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の人を含む関係者全員が、支援全体の方向性や適切な役割分担を共通認識し、当事者として関わる仕組みづくり（連携・協働の仕組みづくり）⇒個別ケースごとに、関わるべき人・機関を組み立て、関係者がお互いに「対応できる範囲」や「情報共有してほしいこと」をわかり合い、適切な役割分担に基づいて支援ができる仕組みづくり（モデル事例の共有などを想定）</li> <li>【理由】<br/>支援が停滞した場合にも、その状況や要因を共通認識できれば、各関係者が必要に応じて別のアプローチを考えられる。一つの支援機関が困難ケースを抱え込まずに、負担を分散できる。<br/>当事者をよく知っている人など、地域の人を巻き込むことが必要である。事例ごとに異なる関わるべき人・機関を組み立て、どのような役割分担で関わるのかというノウハウを共有する必要がある。</li> <li>・医療との連携<br/>【理由】<br/>本人受診拒否のケースについても、支援のために医師等の専門的な見解が欲しいことがある。<br/>支援者が伴走しやうと受診に繋げても、医師の対応ひとつで受診拒否に戻るリスクがある。</li> <li>・当事者意識を育てる環境整備<br/>【理由】<br/>課題が顕在化した後に、地域の人にいきなり当事者意識を持って関わってもらおうとしても困難。<br/>すべての人に、日頃から当事者意識のベースがあることが必要。</li> </ul> |
| （２）更に調べたり検討したりしたいこと                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>「連携・協働の仕組みづくり」について<br/>個別ケースに関わる関係者の「対応できる範囲」や「情報共有してほしいこと」は何か</li> <li>「医療との連携」について<br/>本市で医療機関によるアウトリーチはどの程度行われているか<br/>本市での医療との連携について、どのような事例や活用できる制度・仕組みがあるか</li> <li>「当事者意識を育てる環境整備」について<br/>本市の地域での福祉教育（当事者・関係者・一般向けの講演会や勉強会等）の実施状況（分野や対象者等）<br/>当事者意識を育てる環境整備のためにできることは何か（困難ケースとなるのを未然に防ぐための仕組み）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

## 5) Step3 : 取組アイデアの実行プランをつくる

|               |                                                                                                                                                                             |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 目的            | <ul style="list-style-type: none"> <li>Step2 で検討したアイデアをどうしたら形にできるかを考える</li> <li>わがまちで「次にやること（アクションプラン）」を検討する</li> <li>これからつながりたい相手、つながれそうな相手と一致できる目的や目標があるか確認する。</li> </ul> |
| 所要時間          | <ul style="list-style-type: none"> <li>2 時間～3 時間程度（人数に応じて調整）</li> </ul>                                                                                                     |
| 資料            | <ul style="list-style-type: none"> <li>事務局資料</li> <li>事務局資料内の各ワークシート ※ワークで使うためのブランク（空欄）のものを用意</li> <li>参考資料（取り組み方を検討するにあたって他市町の事例等も確認する趣旨）</li> <li></li> </ul>             |
| 事務局の<br>事前準備  | <ul style="list-style-type: none"> <li>参考資料に掲載されている他市町村の事例等を調査し、参加者と共有する事例を検討する。</li> <li>各メンバーの Step2 のアクションをフォローアップし、事前に状況を把握する。</li> </ul>                               |
| メンバーの<br>事前準備 | <ul style="list-style-type: none"> <li>Step2 で検討したアクションを実践する。庁内外の関係者に対話したり聞き取ったりした結果や参考資料があれば事務局に提出する。</li> </ul>                                                           |

### 実施内容

#### (1) オープニング（Step2 のオープニングと同じ）

#### (2) Step2 以降のアクションの結果を共有する

|            |                                                                                                                                                                                              |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 何をやるか      | <ul style="list-style-type: none"> <li>Step2 で検討した「アイデアの妥当性や実現性を確認するためのアクション」の結果を共有し、妥当性や実現可能性を確認し合う。</li> </ul>                                                                             |
| 形式・時間      | <ul style="list-style-type: none"> <li>発表・対話（60 分程度）</li> </ul>                                                                                                                              |
| なぜやるか      | <ul style="list-style-type: none"> <li>この後の工程で取組アイデアの具体的な企画を考えるための材料を共有します。</li> <li>参加していないメンバーの反応やニーズは、企画の修正やブラッシュアップのために有用な情報となるため、何ができそうか、実現するには何が必要かを考えながらアクションの結果を振り返りましょう。</li> </ul> |
| 到達目標       | <ul style="list-style-type: none"> <li>包括的な支援体制構築に向けた取組アイデアに優先順位つけ、実行に移していくものを絞り込む。</li> </ul>                                                                                               |
| 資料・<br>ツール | <ul style="list-style-type: none"> <li>（あれば）Step2 で検討したアクションの結果や参考資料</li> </ul>                                                                                                              |

### (3) 今後の取組アイデアの企画を具体化する

#### 何をやるか

- ・ 絞り込んだ取組アイデアについて、そのアイデアが出た背景（わがまちのケースや連携課題に根差した必要性）、目的、効果、関わるべき関係者、実現に向けた段取りについて意見を洗い出す。
- ・ また、そのアイデアを本プログラムの参加メンバー以外にも広げたり合意形成をしたりすることも見据えた作戦を練る（例えば多機関協働のルールを作ることにした場合、参加メンバーだけですべてのルールをつくってしまうのではなく、他の関係者と対話しながらつくっていくなど合意形成の作戦を練る等）。

#### 形式・時間

- ・ ワーク（60 分程度）

#### なぜやるか

- ・ 包括的な支援体制の構築や重層事業の成果は数値化しづらいため、その効果や手応えをストーリーとして語れることが重要です。
- ・ わがまちの個別ケースや連携課題を踏まえて、今回考えた取組アイデアがなぜ必要なのか、実現することでどのような効果が期待できるか、実現のためのプロセス（手順や関係者）はどういったものかという設計を整理しておくことで、関係者に説明しやすく、賛同も得やすくなり、実施後の手応えも評価しやすくなります。
- ・ また、参加メンバーが考えた取組アイデアは、そのプロセスと一緒に経験していない他の関係者から見れば唐突に思えるかもしれません。そうした他の関係者への広がり意識した実行プランをつくるのが大切です。

#### 到達目標

- ・ 包括的な支援体制構築に向けた取組アイデアとそれを実現するためのプランを立てるための意見が洗い出される。
- ・ 事務局では、その後、取組アイデアの企画書（実施すること・背景・目的・効果・関係者・実現に向けた段取り等）を作成し、最終成果物とする。

#### 資料・ツール

- ・ 事務局資料 1 – ③p7～p9
- ・ 取組アイデアの企画書ひな形
- ・ 参考資料  
重層的支援体制整備事業を検討することになった人に向けたガイドブック・重層的支援体制整備事業を始めてみたけどなんだかうまくいかない人に向けたガイドブック（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）第3部自治体の取組事例集 p57-89  
[https://www.mhlw.go.jp/content/zyuso\\_guidebook-R5.pdf](https://www.mhlw.go.jp/content/zyuso_guidebook-R5.pdf)

### (4) クロージング

#### 何をやるか

- ・ 本プログラム全体を通じた感想と今後に向けた意気込みを共有する（チェックアウト）。

#### 形式・時間

- ・ 対話（1 人 30 秒程度）

#### なぜやるか

- ・ 最終回のため、メンバー間または事務局からのフォローアップの必要性を確認するだけでなく、メンバー間で引き続き情報交換やサポートし合える関係ができることが大切です。
- ・ また、今後に向けた意欲を自分の言葉で語ることで、プログラム終了後の各自の意識や

|        |                                                                                                               |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | 行動へのコミットメント（自分や仲間と約束し責任をもって果たそうとすること）を高めることができます。                                                             |
| 到達目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加者の気持ち（期待や心配）が共有される。</li> <li>・ 自分自身の今後の行動へのコミットメントを高める。</li> </ul> |
| 資料・ツール | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なし</li> </ul>                                                        |

## 第3章 本人本位の支援を地域と共に実施している取組プロセスのモデル化

### 1. ヒアリング調査

#### 1) 調査設計

##### (1) 目的

困り事を抱えている本人を起点に、制度だけではなく、地域のつながりづくりや活動の活性化に取り組んでいる事例を研究し、本人本位の支援を地域と共に実現するフレームワークを検討し、研修モデルの作成の参考とする。

##### (2) 調査対象

本人本位の支援を地域と共に実施していると思われる以下の自治体等を対象とする。

- ① 久留米市（地域で活動する人同士がつながることで地域における多様な活動を創出し、相談支援と地域づくり両面から包括的な支援体制を整備）
- ② 三股町社会福祉協議会（地域の課題に即した活動とプレイヤーを生み出すことで、地域の困り事を解決）。
- ③ 豊明市（民間企業・地域団体と連携して、高齢者が「ふつうに暮らせるしあわせ」を支える地域包括ケアシステムの地域づくりを推進）

##### (3) 調査内容

本人本位の支援を地域と共に実現するフレームワークを検討し研修モデル作成の参考とするため、以下の事項について調査する。

- ・ 行政職員（委託先）が感じている地域づくりの意義や関係者と共有されているビジョン
- ・ 職員個人が地域づくりの意義を見出した経緯
- ・ 関係者間でビジョンが共有されるに至った経緯
- ・ 地域づくりのゴール設定
- ・ 本人本位の支援を地域と共に実現するために必要な人材や体制

##### (4) 実施方法

本人本位の支援を地域と共に実施していると思われる自治体の主管部署の担当者に対して、対面形式のヒアリングを実施する。

## 2) 実施結果

### (1) 各市町村へのヒアリング結果

#### ① 福岡県久留米市

|                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 行政職員<br>(委託先)<br>が感じている<br>地域づくりの<br>意義や関係<br>者と共有さ<br>れているビジ<br>ョン | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本人の困り事を解決することに着目するのではなく、願いを叶えるアプローチにより、色々な人が関わり合いを持つ状態を「叶え合う支援」とし、重層事業における共通理念として掲げている。</li> </ul>                                                                                                              |
| 職員個人が<br>地域づくりの<br>意義を見出<br>した経緯                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在所属している地域福祉課に配属される前は広報担当部署に在籍しており、そこで1年間で15件の地域のプレイヤーに取材を行ったことで、地域で活動している様々な人の想いを知ることができた。</li> <li>・ また地域福祉課に異動した後も、地域の実践者との出会いが増え、困り事を抱えている人の現状を見ることで、制度との狭間があること、それを埋めている人がいることを知ることができたのは大きかった。</li> </ul> |
| 関係者間で<br>ビジョンが共<br>有されるに<br>至った経緯                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域福祉ロマン～地域福祉 NEO に取り組んできたまちづくりプレイヤーと、その時期に出会った活動団体の実践者が共通の課題感やこれからへの期待感を共有した。</li> <li>・ その結果生まれたのが「AU-formal 実行委員会」であり、重なり方デザイン事業で取り組む「フォーマルとインフォーマルの融合」を共に取り組むことになった。</li> </ul>                              |
| 地域づくりの<br>ゴール設定                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年度ごとに事業を実施して毎年積み上げている。毎年意図を持って取り組み、成果を共有して皆で取り組んでいる。(KPIを決めて取り組んでいるわけではない)</li> </ul>                                                                                                                           |
| 本人本位の<br>支援を地域<br>と共に実現<br>するために必<br>要な人材や<br>体制                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域のインフォーマル(NPO、社協、意識のある住民等)、フォーマルの資源インフォーマルをつなぐ、応援するため行政が体制(支援に携わる現場の人+人が活躍できるためのプラットフォーム)を整えている。</li> <li>・ 地域福祉課はケースを持たずプラットフォーム機能を担っている。</li> </ul>                                                          |

② 宮崎県三股町社会福祉協議会

|                                                                     |                                                                                                                                                                                                         |
|---------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 行政職員<br>(委託先)<br>が感じている<br>地域づくりの<br>意義や関係<br>者と共有さ<br>れているビジ<br>ョン | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域づくりの定義は様々あるが、地域がその地域の特性に応じて考え、住民同士がつながっていくことが重要。</li> <li>・ 三股町社協は伝統的な地域づくりが得意だが、地域におけるテーマや課題が多層化しているため、多様性を受け入れるというスタンスを持って地域づくりを行っている。</li> </ul>          |
| 職員個人が<br>地域づくりの<br>意義を見出<br>した経緯                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を抱えた人を地域で支えるケースを実際に見聞きしている中で、地域づくりの意義を感じるようになった。</li> </ul>                                                                                                  |
| 関係者間で<br>ビジョンが共<br>有されるに<br>至った経緯                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別ケースで救われた、感動した話を限られたメンバーだけで共有するのではなく、もっと色々な人と共有したいと思い、成功した体験をデザイン化した。</li> <li>・ デザイン自体がユーザー起点の考え方であり、デザイナーと働いたことで、受け手がどう理解するか、受け手を主体にして考えることができた。</li> </ul> |
| 地域づくりの<br>ゴール設定                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域づくりが進んでいることを可視化するため、数値目標やロゴを作成している。</li> <li>・ 地域づくりが進んでいるかどうかは回答しづらいが、地域の課題に対して行動を起こしている人は事実として増えている。</li> </ul>                                            |
| 本人本位の<br>支援を地域<br>と共に実現<br>するために必<br>要な人材や<br>体制                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社協職員 4 人で、色々な活動を立ち上げている。</li> <li>・ 1 名は全体の座組を検討し、残り 3 名は地域に出向いて重層事業の実施を担当している。</li> </ul>                                                                     |

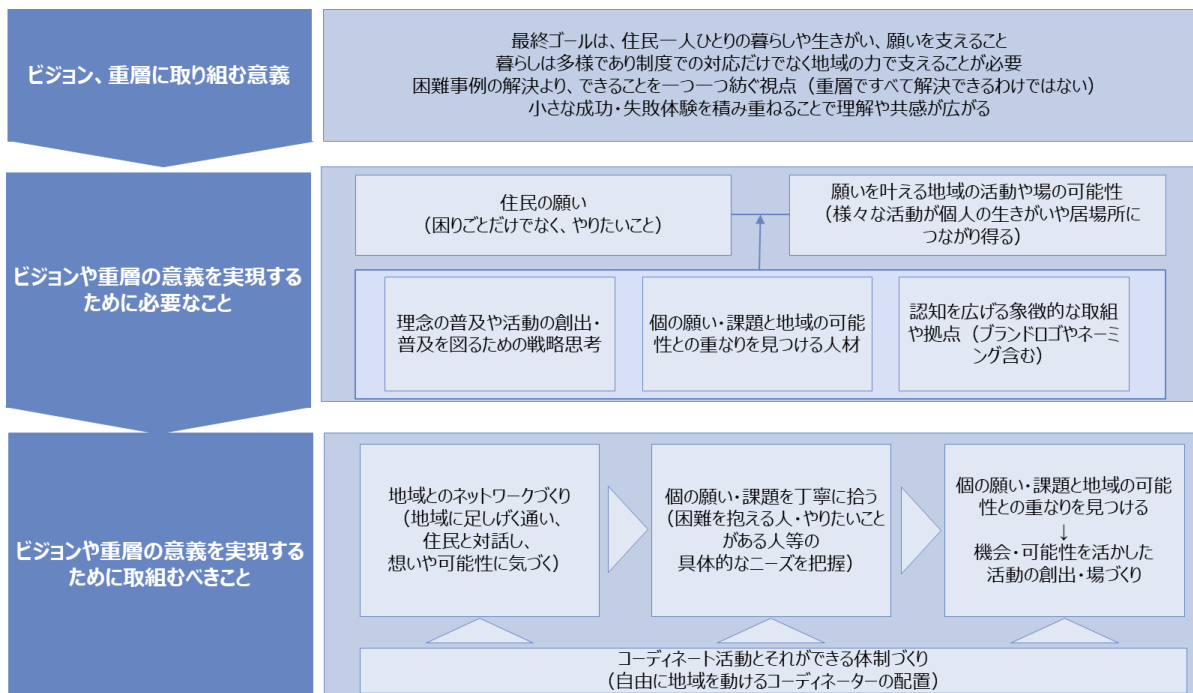
### ③ 愛知県豊明市

|                                                                     |                                                                                                                                                        |
|---------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 行政職員<br>(委託先)<br>が感じている<br>地域づくりの<br>意義や関係<br>者と共有さ<br>れているビジ<br>ョン | <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 28 年 4 月より市が主催している地域ケア会議（多職種合同ケアカンファレンス）において、「ふつうに暮らせるしあわせをいかに守りささえるか」ということを共通理念として多様な関係者と共有している。</li> </ul> |
| 職員個人が<br>地域づくりの<br>意義を見出<br>した経緯                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>市民協働や市内の喫茶店マップづくりを通じて、地域資源の価値や可能性を見出していた。<br/>多職種合同ケアカンファレンスにおいて、個の課題と地域資源の重なりが見えた。</li> </ul>                  |
| 関係者間で<br>ビジョンが共<br>有されるに<br>至った経緯                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域包括ケアをベースとして地域共生社会に至っているため、既に関係者間でビジョンの共有ではできていた。</li> </ul>                                                   |
| 地域づくりの<br>ゴール設定                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>個の生きがいサポートされること</li> </ul>                                                                                      |
| 本人本位の<br>支援を地域<br>と共に実現<br>するために必<br>要な人材や<br>体制                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>重層事業を担当する地域共生課の職員に加えて、生活支援体制整備事業で配置している生活支援コーディネーター（SC）が地域に出向き地域資源の発掘や整理等を行っている。</li> </ul>                     |

### (2) 結果まとめ

ヒアリングの結果、本人本位の支援を地域と共に実施している自治体の共通事項を図表 3-1 の通り整理した。また、ヒアリング結果や整理した共通事項を元に検討委員会において、研修プログラムのカリキュラムを「包括的な支援体制構築に向けた実践型プログラム（地域づくり編）」として整理した（カリキュラムの詳細は本章「2」を参照）。

図表 3-1 本人本位の支援を地域と共に実施している自治体の共通事項



## 2. 包括的な支援体制構築に向けた実践型プログラム（地域づくり編）

本カリキュラムは、プログラムの実施を検討する市町村の事務局の役割を担い得る担当者向けに作成している。事務局担当者は本カリキュラムを一読したうえでプログラムの実施要否や実施内容・方法を検討していただきたい。

なお、別添に本カリキュラムを実施する際に活用できるパワーポイント形式のスライド資料のひな形を添付している。各市町村の実施内容・方法に応じて、パワーポイントを自由に改変のうえ活用していただきたい。

### 1) プログラム全体像

#### (1) プログラムが必要とされる背景

- 重層的支援体制整備事業（以下「重層事業」という。）における「地域づくり事業」は、もともと介護、子ども、障害、生活困窮の4分野における「地域づくり」関連の事業を一つにまとめて実施することで、制度の狭間に置かれていた当事者に対して、行政と地域住民が協働しながら柔軟なサポートをしていくことを目的とした事業です。
- しかし重層事業の実施にあたっては、福祉分野の専門機関の相談・連携体制の整備や多機関協働に先行して取り組まれている場合が多く、多様な地域の関係者と連携した包括的な支援を実現していくための体制整備はまだあまり進んでいません。
- また、今まで個別に運用されていた5事業<sup>1</sup>が連携して実施することを求められていることから「5事業間を上手くつなぐにはどうすればよいのか分からない」といった分野連携に関する課題感から、『そもそも「地域づくり」のイメージがつかない』といった課題感まで、事業を推進していく中で様々な課題感を抱える自治体が多くあります<sup>2</sup>。
- そこで、支援を必要とする本人本位の包括的な支援を実現する考え方や、地域の関係者と支え・支えられる関係性を築いていくための地域づくり事業のあり方についてイメージを持つため、地域に出向き、地域住民と対話し、支援を要する本人と地域住民の想いや活動との重なりを見つけるプロセス（過程）を実践することを支援するために本プログラムを作成しました。

#### (2) プログラムの目的

- 行政職員（委託先含む）が地域の価値を発見し、包括的な支援を実現するための地域づくりの考え方について、関係者と共有する
- 重層事業における地域づくりのあり方と体制について、具体的に検討するための足掛かりとする

<sup>1</sup>介護分野の「地域介護予防活動支援事業」「生活支援体制整備事業」、障害分野の「地域活動支援センター機能強化事業」、子ども分野の「地域子育て支援拠点事業」、生活困窮分野の「生活困窮者支援等のための地域づくり事業」の5事業を指す。

<sup>2</sup> 株式会社 Ridilover. 重層的支援体制整備事業「地域づくり」推進のための手引き～地域共生社会の実現に向けて～, 2023.3

### (3) プログラムが対象とする市町村像

- これから重層事業の実施を検討している、または、重層事業は実施せずとも包括的な支援体制の構築が必要と考えている市町村
- 重層事業の移行準備中、または実施中で枠組みや会議体は作ったものの、地域づくりを具体的にどのように進めていいかわからないと感じている市町村

### (4) プログラム実施により期待される効果（到達目標）

- 参加メンバーが地域づくりの意義やビジョンを見出せる
- ビジョンを実現するために必要な体制や行動を見直すことにつながる
- その結果、ビジョンの明確化や共有、計画への落とし込みや地域づくりの体制（人材・予算）の確保につながる

### (5) 想定されるプログラム事務局担当者

- 包括的な支援体制の構築にあたって中心的な役割を担う部課室・担当者
- 重層事業の検討を任された部課室・担当者
- 地域づくりに関するワークショップ等の企画やファシリテーション、地域住民へのインタビューの経験者（主管部署のメンバーでプログラムの設計やファシリテーションの経験や自信がない場合は、庁内外の経験者に事務局として入ってもらうことも検討する）

### (6) 想定される参加者

- 庁内関係部局の地域づくり事業担当者、または地域づくりに直接的・間接的に関わる担当者（生活困窮者、障害者、高齢者、子どもに係る施策を担当する部署、市民協働やまちづくりに係る施策を担当する部署 等）
- 庁外の地域づくりに関わる、または関心がある関係者（医療・福祉の専門職、まちづくりの関係者（自治会、NPO、社協等）、地域住民 等）
- 参加メンバーは、最初に決めて最後まで全員でやり切ることが理想だが、メンバーの業務状況や相性など、様々な事情を鑑みながらメンバーの追加や交代など、柔軟に対応する視点も持つ。

### (7) 想定されるプログラムの活用方法

- 本プログラムは、包括的な支援のための地域づくりのビジョンや体制、取り組み方について、関係者と共に地域づくりのプロセスの一部を実践し、対話をしながら検討を深めるためのツールとして開発されました。本プログラムを実施することによって、包括的な支援のための地域の多様な関係者との連携のあり方や必要な体制の検討及び見直しにつながることを期待されます。
- 地域づくりについて、何から手を付けたいかわからない担当者は、まずは身近な関係者と一緒に本プログラムを試し、関係者と共に地域の資源やその可能性を見出し、共有することを目指してみてください。

- また、地域づくりについての考え方を共有する庁内外の仲間を増やしていきたい、各分野がばらばらに行っている“点”の活動を“面”として展開する方策を関係者と一緒に考えていきたいという場合にも、本プログラムを活用することができます。
- 本プログラムを通して地域の可能性に気づき参加メンバーと共有することができれば、地域のネットワークづくりの必要性やそのための活動、地域づくりを推進するために必要な人材像や体制について、少しずつイメージを持てたり深めたりすることが期待できます。そうしたことを機に具体的な活動や指針の策定や 1, 2 年先の体制の構築や見直しにつながります。
- また、福祉計画や関連する各分野の事業計画の策定や実行にあたって、地域関係者との対話や、地域資源や人材の発掘が必要である、という共通認識を持つことも期待できます。
- こうした成果を見据え、様々なケースを題材に本プログラムを繰り返し実践し、地域づくりの仲間の輪を増やしていくことや、地域づくりを実際に進めていくものとして活用してみてください。
- なお、本シラバスの内容や、本プログラムの参考資料として作成した事務局資料等については、あくまで枠組みの参考として活用いただき、それぞれの市町村の状況に応じて、シラバスや事務局資料の一部を活用することも可能ですので、各市町村において地域の実情に応じて判断してください。

## (8) 主な内容と必要な期間

- 事前準備（1～2 か月程度）
  - ・ 事務局を決め、事務局メンバーが重層事業における地域づくりの考え方を理解する
  - ・ プログラムを設計する（目標、メンバー、スケジュール等）
  - ・ キックオフに向けた準備（メンバー招集、ケース情報収集等）
- プログラム（3～6 か月）
 

※メンバーの時間の確保が難しければ、Step4 を省略し、Step3 と Step4 をあわせて実施することも可。

| Step | 形式 | 内容（所要時間のイメージ）                                                                                                                                                                            |
|------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1    | 集合 | <b>キックオフ／インタビュー計画を立てる（2～3 時間程度）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重層事業における地域づくりの考え方とプログラム趣旨を共有する</li> <li>・ 参加メンバーを知る</li> <li>・ 地域資源を洗い出す</li> <li>・ インタビュー計画を立てる</li> </ul> |
| 2    | 実践 | <b>地域の関係者にインタビューする（2～4 週間程度）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ インタビューを実践する</li> <li>・ 個別ケースの情報を補強する ※必要に応じて実施</li> </ul>                                                      |
| 3    | 集合 | <b>重なりを生むアイデアを出す（2～3 時間程度）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ インタビューの結果を共有する</li> <li>・ 個別ケースとの重なりを生むアイデアを出す</li> </ul>                                                        |

|   |    |                                                                                                                         |
|---|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4 | 実践 | <b>アイデアの実現可能性を検証する（2～4 週間程度）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係者と対話する</li> </ul>                           |
| 5 | 集合 | <b>振り返り（2～3 時間程度）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検証結果を共有する</li> <li>・ 一体的な地域づくりの必要性や体制について検討する</li> </ul> |

## 2) 事務局による事前準備

|        |                                                                                                                                        |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 目的     | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域づくりのイメージをもったうえで、研修を通じて何を成し遂げたいかを決める</li> <li>成し遂げたいことを実現する上で一緒に取り組むべき関係者を考える</li> </ul>       |
| 所要時間   | <ul style="list-style-type: none"> <li>1～2 か月程度</li> </ul>                                                                             |
| 資料・ツール | <ul style="list-style-type: none"> <li>重層事業の地域づくりを理解するための教材</li> <li>事前準備用ワークシート（重層事業に取り組む目的・理由、コアメンバー書き出し）</li> <li>ケースシート</li> </ul> |
| 実施内容   | <ul style="list-style-type: none"> <li>事務局を設置する</li> <li>プログラムを設計する</li> <li>参加メンバーを編成する</li> <li>Step1 の準備をする</li> </ul>              |

### 実施内容

#### (1) 事務局を設置する

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 何をやるか  | <ul style="list-style-type: none"> <li>プログラムを企画・運営する事務局メンバーを選定する。</li> <li>事務局担当者は過去の国研修の動画や資料を確認し、重層事業における地域づくりの考え方について理解をする。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| なぜやるか  | <ul style="list-style-type: none"> <li>プログラムによって成果を得るためには、事務局機能が重要です。まずは事務局メンバーがこのプログラムを設計するため、重層事業における地域づくりの考え方への理解を深めることから始めます。</li> <li>地域づくりの考え方は本プログラムでの実践を通して深めていくため、この段階では、地域づくり事業や参加支援事業、アウトリーチ事業等の概要や事例について、教材による学習をしておけば大丈夫です。</li> </ul>                                                                                                                                                                              |
| 資料・ツール | <ul style="list-style-type: none"> <li>「地域づくり」推進のための手引き～地域共生社会の実現に向けて～（令和 5 年 3 月 株式会社 Ridilover）</li> <li>令和 5 年度重層的支援体制整備事業研修 応用編動画<br/>動画：<br/><a href="https://www.youtube.com/playlist?list=PLMG33RKISnWhQVin_1k9StnRPD843VtPM">https://www.youtube.com/playlist?list=PLMG33RKISnWhQVin_1k9StnRPD843VtPM</a><br/>資料：<br/>地域づくりに向けた取組について（東京都立大学 人文社会学部准教授・室田信一）<br/>地域づくりに向けた取組について（全国コミュニティライフサポートセンター理事長・池田昌弘）</li> </ul> |

地域への働きかけ（豊中市社会福祉協議会 福祉推進室長・勝部麗子）

- ・ 包括的な支援体制づくりハンドブック（監修 藤井博志（関西学院大学）、編集 広島県社会福祉協議会）

## （2）プログラムを設計する

### 何をやるか

- ・ 本プログラムの基本設計として、プログラムにより達成したいゴール、メンバー、具体的な工程、スケジュールを検討する。

### なぜやるか

- ・ 参加メンバーがプログラムの趣旨に賛同し積極的に参加してもらうためには、事務局としての問題意識や意図がしっかりと伝わる大切です。
- ・ そのため、なぜ本プログラムを実施したいのか、事務局としての問題意識とともに、本プログラムで何を達成したいのかまたはどのような状態になりたいのか、といったゴール設定や問題意識に対応していくために必要なメンバー、スケジュールを検討します。
- ・ 事務局は、本プログラムの内容や資料を一通り確認し、必要な期間や参加メンバーに確保してほしい時間について検討しておきましょう。

### 資料・ ツール

- ・ 事前準備用ワークシート（重層事業に取り組む目的・理由、コアメンバー書き出し）

## （3）参加メンバーを編成する

### 何をやるか

- ・ 各分野の地域づくり行政担当、実務者（コーディネーター）、社協等委託先等から参加メンバーを選出する。
- ・ 参加メンバーへの声掛けとともに、上長に根回しをする。事務局としての問題意識やプログラムの目的・ゴール、参加メンバー候補、スケジュール、参加メンバーの役割や確保してほしい時間を説明し、協力を得る。
- ・ 現場のメンバーと顔の見える関係ができていない場合は、各組織長等に参加メンバーを選出してもらう。

### なぜやるか

- ・ 参加メンバーの主体的な参加のためには、本人の意欲と所属する組織の理解が必要不可欠です。
- ・ 資料やメールで依頼するだけでなく、メンバー候補（本人）と所属する組織長にプログラムの趣旨を対面で説明し、賛同してもらうことが重要です。
- ・ なお、地域づくり編では、地域で活躍する人や団体の洗い出しも行うため、地域づくりに直接的・間接的に関わる担当者（生活困窮者、障害者、高齢者、子どもに係る施策を担当する部署、市民協働やまちづくりに係る施策を担当する部署 等）にも参加してもらうことが重要です。

### 資料・ ツール

- ・ なし

## （4）Step1 の準備

#### 何をやるか

- ・ 地域とのつながりが必要そうなケースの情報を集める。（各相談機関等への聞き取り）
- ・ Step1 で共有するケースを選定するため、ケース担当者に Step1 に向けてケースシートの作成と当日の共有をお願いする。
- ・ ケース情報の提供者にキックオフの趣旨を説明し、Step1 で提供してもらいたい情報のすり合わせをする（提供してもらったケースは、本人の困り感だけでなく、関心事やできごと等、本人の意欲につながる情報を把握できているものを選定する）。

#### なぜやるか

- ・ Step1 当日には、個別ケースを題材として、本人本位の包括的な支援を実現するための様々な地域資源を挙げ、Step2 以降で実際にインタビューに行くことを想定しています。
- ・ そのため、地域との様々なつながりが必要そうなケースを事前に収集しておき、当日の地域資源の洗い出しが活性化するようなケースの目星をつけておくことが大切です。
- ・ また、ケースの情報収集を通して、事務局としても地域づくりの必要性を確認することができます。

#### 資料・ ツール

- ・ ケースシート

### 3) Step1 : キックオフ／インタビュー計画を立てる

|           |                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 目的        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プログラムの趣旨・ゴール・進め方等をメンバー間で共有する。</li> <li>・ 地域とのつながりが必要な具体的なケースを共有し、ケースに関わり得る関係者や資源についてアイデア出しをする。</li> <li>・ 福祉分野に限らない、地域で活躍している人・団体、ネットワークがある人・団体を洗い出し、具体的なケースとつながりそうな人・団体について考え、絞り込む。</li> <li>・ 実践①に向けた ToDo や各自の役割を確認する。</li> </ul> |
| 所要時間      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2～3 時間程度</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                  |
| 資料・ツール    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務局資料</li> <li>・ 事務局資料内の各ワークシート ※ワークで使うためのblank（空欄）のものを用意</li> <li>・ 重層事業の地域づくりを理解するための教材</li> <li>・ 個別ケースシート（メンバーが情報を記入したもの）</li> <li>・ 付箋、ペン、ホワイトボードまたは模造紙</li> </ul>                                                              |
| 事務局の事前準備  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2) の「事務局による事前準備」に記載の通り</li> </ul>                                                                                                                                                                                                    |
| メンバーの事前準備 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ケース提供者は個別ケースシートを作成し事務局に提出しておく。</li> </ul>                                                                                                                                                                                            |

#### 実施内容

##### (1) 重層事業における地域づくりの考え方とプログラムの趣旨を共有する

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 何をやるか | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重層事業における地域づくりの制度的な背景や基本的な考え方、事例について事務局から説明する。（必要に応じて、動画教材と一緒に視聴する）</li> <li>・ プログラムの趣旨（目的・ゴール・進め方・スケジュール）を事務局から説明し、質疑を交えながら認識合わせをする。</li> </ul>                                                                                                                                             |
| 形式    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 説明（20～40 分）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| なぜやるか | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重層事業で地域づくりが求められる背景や地域づくりの考え方（目的や取り組み方等）は、参加メンバーそれぞれに違ったイメージを持っている可能性があります。そのため、重層事業における地域づくりの考え方やイメージを、参考資料等を使いながら参加メンバー間で確認することが大切です。</li> <li>・ また、本プログラムの趣旨については参加メンバーに事前に説明していることが前提となりますが、メンバーはなんとなく理解している程度だったり、疑問を持っている可能性もあります。改めてこの場で質疑も交えながら、参加メンバー全員と認識合わせをすることが大切です。</li> </ul> |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市町村の創意工夫で福祉 4 分野を一体的に進めることが可能であること、わがまちの</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                         |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | <p>必要な体制を検討するためのプログラムであることについて、メンバー間で認識が共有されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域づくりが本人本位の包括的な支援や支え・支えられる関係づくりを目指すものという認識が共有されている。</li> <li>・ プログラム全体及び Step1 の趣旨・ゴール・進め方についてメンバーと認識が共有されている。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 資料・ツール | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務局資料 2 - ① p 3 ~ p 6</li> <li>・ 「地域づくり」推進のための手引き～地域共生社会の実現に向けて～（令和 5 年 3 月 株式会社 Ridilover）p 5 ~ p 10（制度的背景や基本的な考え方）<br/>資料：<a href="https://ridilover.jp/government/file/jusochiikizukuri.pdf">https://ridilover.jp/government/file/jusochiikizukuri.pdf</a></li> <li>・ ケースから見る！人や物、情報やネットワークを重ねるとは（社会福祉法人半田市社会福祉協議会 加藤恵）<br/>資料：<a href="https://www.mhlw.go.jp/content/001172327.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/001172327.pdf</a><br/>動画（10:16～29:24）：<br/><a href="https://youtu.be/W8g2S2tokiQ?si=0hUhkzg4EKvJTR4J">https://youtu.be/W8g2S2tokiQ?si=0hUhkzg4EKvJTR4J</a></li> </ul> |

## (2) 参加メンバーを知る

|        |                                                                                                                                                                                                                                    |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 何をやるか  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ メンバー同士の自己紹介をする。</li> </ul>                                                                                                                                                                |
| 形式     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対話（1 人 1 分程度）</li> </ul>                                                                                                                                                                  |
| なぜやるか  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これから一緒に地域づくりの体制を考えていくにあたり、メンバー同士がそれぞれの所属や日ごろの業務（特に地域づくりに関連する業務）、個性や専門性を知っておくことで、誰に何を頼ることができそうなのか、どんな風に頼るとよさそうかを知ることが大切です。</li> <li>・ メンバー同士がそれぞれを知っておくことで、今後の対話や実践の活性化につながります。</li> </ul> |
| 到達目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ メンバー同士（事務局含む）が、それぞれの立場や専門性や個性等、何かしらを知る。</li> <li>・ メンバーがリラックスした気持ちで参加できる、和やかな雰囲気ができる。</li> </ul>                                                                                          |
| 資料・ツール | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務局資料 2 - ① p 7 ~ p 8</li> </ul>                                                                                                                                                          |

## (3) 地域資源を洗い出す

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 何をやるか | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プログラム開始前に集めた複数のケースに関する情報をメンバーと共有する。その際、抱えている課題だけでなく、その人が地域で持てそうな役割や強み等も考えてみる。</li> <li>・ 共有したケースの中から多様な関係者の協力が必要そうなケースを 1 ~ 3 つ選定し、そのケースに関わる資源（活動や関係しそうな人）を多様な視点で洗い出す。</li> <li>・ さらに、福祉分野に限らず、メンバーが把握している地域で活躍している人・団体や地</li> </ul> |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               | <p>域にネットワークがある人・団体も可能な限り洗い出す。ケースとは一見無関係な人・団体も含めて、メンバーに知ってほしい人・団体をその理由とともにできるだけ多く挙げる（地域で色々な人と関わりながら楽しそうに活動している人・団体を挙げると良いでしょう。）。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <b>形式</b>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>ワーク（1 ケース 10 分程度×ケース数、ケース選定・資源の洗い出しで 30 分程度）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| <b>なぜやるか</b>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域づくりや地域住民との関わりは、本人本位の包括的な支援、支え・支えられる関係づくりのために必要なことへの理解を深めるために、地域との関わりが必要そうなケースを共有します。</li> <li>地域との関わり方は、本人に困り事への支援という側面だけではなく、本人が地域に対して何らかの役割を果たすという側面もあるため、ケースを検討する際は両方の側面から検討します。本人本位の支援、支え・支えられる関係づくりにおいては、いずれの側面からでも地域とのつながりを持つことが大切です。</li> <li>そのようにして地域に居場所ができ、居場所での活動を通じて日常の中で行われる住民同士の支え合いや緩やかな見守りが、本人にとっての伴走支援にもつながります。</li> <li>また、このあとの実践で地域の関係者にインタビューをしていくにあたり、闇雲にインタビューをするのではなく、地域とのつながりが必要な人のイメージを頭に置きながらインタビュー対象者を洗い出したり実際にインタビューすることができます。</li> </ul> |
| <b>到達目標</b>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域とのつながりが必要そうな実際のケースを共有し、地域づくりの必要性について認識が共有されている。</li> <li>本人本位の支援、支え・支えられる関係づくりには、様々な資源（活動や地域住民）が関わり得ることを理解する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <b>資料・ツール</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>事務局資料 2－① p9～p14</li> <li>個別ケースシート（メンバーが情報を記入したもの）</li> <li>資源の洗い出しワークシート（blank）<br/>※全員で 1 枚を眺められるよう大きなサイズで印刷</li> <li>付箋、ペン、ホワイトボードまたは模造紙</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

#### (4) インタビュー計画を立てる

|              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>何をやるか</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>Step2 の実践の実施目的、実施方法を説明する。</li> <li>（3）で挙げた地域の関係者もあわせ、選んだケースについて、地域とのつながりの実現に関わってくれそうな地域の人・団体、そのための情報を持っていそうな地域の人・団体をインタビュー対象者として選定する。</li> <li>各対象者に何を聞か、ワークシートをもとに確認する。</li> <li>誰が・誰に・いつまでにインタビューを実施するか、計画を立てる。</li> <li>（3）で検討したケースについて、より充実させたい情報がないかを確認し、必要に応じて、ケースの情報を充実させるための役割とスケジュールを決める。</li> </ul> |
|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

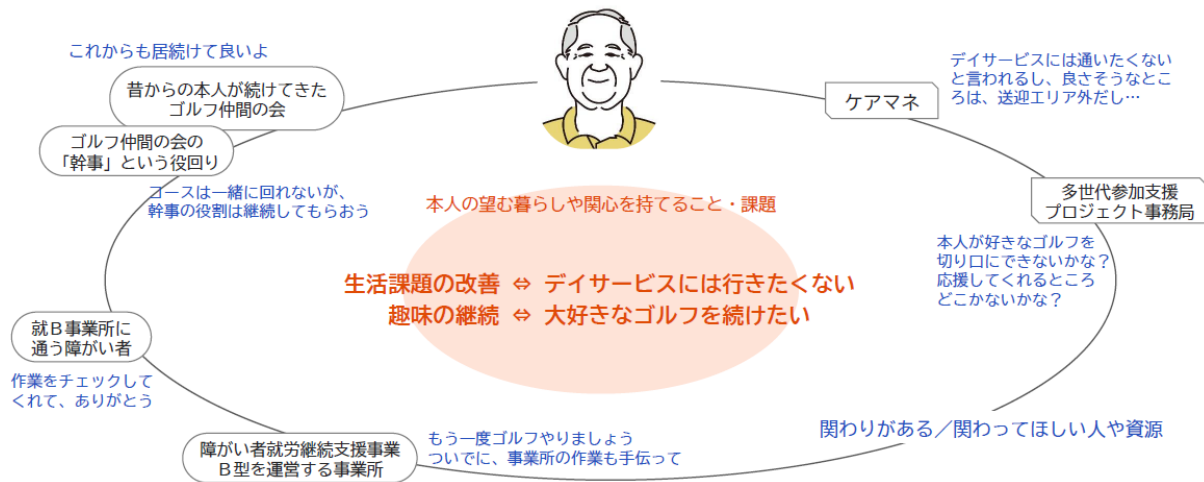
|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>形式</b>     | ・ ワーク（30 分程度）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| <b>なぜやるか</b>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ （３）ではケースをもとに地域の関係しそうな資源を挙げましたが、地域では思わぬ人が思わぬ情報や想いを持っていることがあります。地域づくりではそうした偶然の出会いから何かが生まれることもあり、普段から様々な地域住民等とのネットワークを持つておくことが大切です。そのため、福祉分野以外の地域の関係者にも話を聞いてみて、地域とのネットワークの大切さを発見できるように進行していきましょう。</li> <li>・ Step2 の実践を進めるにあたり、誰がいつまでに何をするかを明確にし、確実に実践できるように事務局がサポートしてください。</li> <li>・ ケース情報の充実については、（３）で検討した際に本人の望む暮らしや興味関心などについてもっと知ることで地域とのつながりの可能性を広げられないかを関係者とも確認し、必要があれば Step3 までにケース情報を充実したり、適宜情報交換ができるようにしましょう。</li> </ul> |
| <b>到達目標</b>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域で活躍している人・団体、ネットワークがある人・団体を新たに知る。</li> <li>・ 福祉分野以外にも目を向けることの重要性が共有される。</li> <li>・ Step2 のインタビューに向けてそれぞれの役割やスケジュールが明確になっている。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <b>資料・ツール</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務局資料 2 - ① p15～p19</li> <li>・ インタビュー候補者リスト</li> <li>・ インタビューシート</li> <li>・ ToDo 整理シート</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

## (5) クロージング

|               |                                                                                                               |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>何をやるか</b>  | ・ 本日の感想を共有する（チェックアウト）。                                                                                        |
| <b>形式</b>     | ・ 各自発表（1 人 30 秒程度）                                                                                            |
| <b>なぜやるか</b>  | ・ 参加メンバーがそれぞれどんな想い（期待や心配など）を持っているかを共有することは、メンバー間の心理的安全性の確保にもつながり、想いを知ることでメンバー間または事務局からのフォローアップの必要性を知ることができます。 |
| <b>到達目標</b>   | ・ 参加者の気持ち（期待や心配）が共有される。                                                                                       |
| <b>資料・ツール</b> | ・ なし                                                                                                          |

## ワークシート例

### 資源の洗い出しワークシート



#### 4) Step2 : 地域の関係者にインタビューする

|           |                                                                                                                                |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 目的        | <ul style="list-style-type: none"> <li>実際に地域に出て、どのような人や団体が地域でどのような活動をしているのか等、地域の現状を知る。</li> <li>ケースについて足りない情報を補足する。</li> </ul> |
| 所要時間      | <ul style="list-style-type: none"> <li>2～4 週間程度</li> </ul>                                                                     |
| 資料・ツール    | <ul style="list-style-type: none"> <li>インタビューシート</li> </ul>                                                                    |
| 事務局の事前準備  | <ul style="list-style-type: none"> <li>なし（事務局もメンバーの一員としてインタビューを実施または参加する）</li> </ul>                                           |
| メンバーの事前準備 | <ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じて、インタビューシートを印刷して用意しておく。</li> </ul>                                                 |

#### 実施内容

##### (1) インタビューを実践する

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 何をやるか  | <ul style="list-style-type: none"> <li>各担当が方針に沿って Step1 で選定したインタビュー対象者にインタビューを行い、どのような想いを持って活動しているか、活動を始めたきっかけ等を確認する（地域に足を運ぶ）。※2 名体制で実施することが望ましい。</li> <li>活動をしていない人であっても、個別ケースの情報やその人のためにあったらよいと思う資源や活動について、何らかの情報やネットワーク、その人自身がやりたいという想いを持っていないか等を探る（個人情報に触れないよう留意する）。</li> </ul> |
| 形式     | <ul style="list-style-type: none"> <li>フィールドワーク</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                          |
| なぜやるか  | <ul style="list-style-type: none"> <li>Step1 で確認するように、本人本位の支援、支え・支えられる関係づくりのためには、地域住民の想いや活動など様々な可能性や機会を活かしていくことが大切です。このフィールドワークで、メンバー一人ひとりが地域の可能性に気づいたり発見したりすることを目指します。</li> <li>インタビューは 1 人ではなく、地域で活躍する人や団体とのコミュニケーションに慣れている人と一緒に実施できると良いでしょう。</li> </ul>                          |
| 到達目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域で活動している人・団体の想いやネットワークを知る。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                       |
| 資料・ツール | <ul style="list-style-type: none"> <li>インタビューシート</li> </ul> <p>※インタビューの際は、対象者との関係性や想定される反応（初対面で警戒心を持たれないか等）を考慮し、必ずしもインタビューシートを使って会議のような形式で実施する必要はありません。地域の活動と一緒に参加したり、立ち話で聞いてみることも時には有効です。</p>                                                                                      |

## (2) 個別ケースの情報を補強する ※必要に応じて実施

### 何をやるか

- ・ Step1 では把握しきれなかったケース情報を収集する。
- ・ 適宜、メンバーと情報交換する（または Step3 で共有する）。

### 形式

- ・ フィールドワーク

### なぜやるか

- ・ Step2 で検討した際に本人の望む暮らしや興味関心などについてもっと知ることができれば、地域とのつながりの可能性が広がるかもしれません。必要に応じてケース情報を充実させてみましょう。

### 到達目標

- ・ 本人の望む暮らしや関心を持てること等、本人や世帯のことをより深く把握し、地域の人・団体との重なり合いを見つけやすくする。

### 資料・ ツール

- ・ ケースシート

## 5) Step3 : 重なりを生むアイデアを出す

|               |                                                                                                      |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 目的            | ・ Step2 の実践で把握した情報をメンバー間で共有し、個別ケースとの重なりを見つける、アイデアを生み出す。                                              |
| 所要時間          | ・ 2～3 時間                                                                                             |
| 資料・<br>ツール    | ・ 事務局資料<br>・ 事務局資料内の各ワークシート ※ワークで使うためのブランク（空欄）のものを用意<br>・ Step2 で作成したワークシート<br>・ 付箋、ペン、ホワイトボードまたは模造紙 |
| 事務局の<br>事前準備  | ・ Step2 の結果を事前に簡単に確認しておく。記入されたインタビューシートをとりまとめる。                                                      |
| メンバーの<br>事前準備 | ・ インタビューシートに記載し、事務局に提出する。                                                                            |

### 実施内容

#### (1) オープニング

|            |                                                                                    |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 何をやるか      | ・ 参加メンバーの今の気持ちを共有する（チェックイン）。                                                       |
| 形式・時間      | ・ 各自発表（1 人 30 秒）                                                                   |
| なぜやるか      | ・ アイスブレイクとしてリラックスした雰囲気をつくるとともに、全メンバーの今の気持ち（期待や不安）を知ることによって当日の進行に役立つ情報が得られるかもしれません。 |
| 到達目標       | ・ メンバーがリラックスした気持ちで参加できる、和やかな雰囲気ができる。                                               |
| 資料・<br>ツール | ・ なし                                                                               |

#### (2) インタビューの結果を共有する

|       |                                                                                                                              |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 何をやるか | ・ Step2 のインタビューの結果をメンバー間で共有する（各自が発表）。                                                                                        |
| 形式・時間 | ・ ワーク（30 分 ※インタビューの実施件数に応じて時間を確保する）                                                                                          |
| なぜやるか | ・ メンバーが Step2 で実践してきた結果の“情報共有”をするだけでなく、地域の可能性に目を向けたという意識と行動そのものの意義を共有することが大切です。<br>・ また、それぞれが持ち込んだ情報から新たな地域の可能性に気づけるかもしれません。 |
| 到達目標  | ・ 地域の人・団体の具体的な活動や、持っている想いを知る。<br>・ 地域の様々な主体と連携していける可能性を感じられる。                                                                |
| 資料・   | ・ インタビューシート（メンバーが記載したもの）                                                                                                     |

### (3) 個別ケースとの重なりを生むアイデアを出す

- 何をやるか**
- 共有された地域の人・団体と、個別ケースとの重なり合いをメンバー同士で検討し、アイデアを出し合う。
  - 一通りアイデアを出し終えたら皆で改めてアイデアを眺め、実際に実現できそうなものがあるか意見を出し合う。その際、支援が必要な人本人と地域住民・団体のどちらも嬉しいWIN-WINの関係ができるか、という視点で考えてみる。また、実現した際に他のケースへの支援にもつなげられる可能性についても意見を交わす。

- 形式・時間**
- ワーク（60分）

- なぜやるか**
- 本人本位の包括的な支援のためには、重なりを“生み出す”という視点も大切です。
  - 再度、Step1で検討したケースについて振り返り、Step2で聞いてきた地域の可能性や住民・団体の想いと重なりをつくれるような活動のアイデアを生む練習をしましょう（練習といっても単なる仮定のシミュレーションではなく、実際に本人と地域とがつながるアイデアを本気で考えてみるのが大切です）。
  - 実際に実現可能かどうかわからないアイデアであっても否定せず、自由にアイデア出しをしてみましょう。

- 到達目標**
- 個別ケースと地域の人・団体の想いや活動が重なる可能性があるアイデアが複数出る。

- 資料・ツール**
- 事務局資料2-② p8～p10
  - 重なり検討ワークシート（blank）  
※全員で1枚を眺められるよう大きなサイズで印刷
  - 付箋、ペン
  - 取組のヒントとして、令和4年度国研修（応用編）の動画を参考としてください。  
<https://youtu.be/wBrv9e7mkxU?si=pMBtJ7soVYQfqVh1>

### (4) Step4に向けた準備 ※Step4を省略する場合は実施しない

- 何をやるか**
- Step4の趣旨（目的とやること）について説明する。
  - アイデアの実現可能性を検証するために対話したい人を挙げる（ケースとした本人、家族、関係者やインタビューをした地域住民・団体。その他に新たに話を聞いてみたい人がいないか検討し、適宜追加する）。
  - 誰が何をいつまでに実施するかを決める。

- 形式・時間**
- ワーク（20分前後）

- なぜやるか**
- 生み出したアイデアを実現していくためには、対象とするケースの本人、関係者、地域住民・団体等、関係し得る人との協力可能性を模索していくことが必要です。そのためStep4で実施すべきことや関係者に対話したいことを挙げて役割分担を決めましょう。

- 到達目標**
- Step4で誰が何をいつまでにするかが明確になっている。

資料・  
ツール

- ・ 事務局資料 2 - ② p11～p15
- ・ アイデアの実現可能性検討シート

(5) クロージング

何をやるか

- ・ 本日の感想を共有する（チェックアウト）。

形式・時間

- ・ 対話（1 人 30 秒程度）

なぜやるか

- ・ メンバー間の心理的安全性の確保
- ・ メンバー間または事務局からのフォローアップの必要性の確認

到達目標

- ・ 参加者の気持ち（期待や心配）が共有される。

資料・  
ツール

- ・ なし

## 6) Step4 : アイデアの実現可能性を検証する

|               |                                                           |
|---------------|-----------------------------------------------------------|
| 目的            | ・ Step 3 で検討した個別ケースと地域の人・団体の取組との重なりを生むアイデアが実際に実現可能かを確認する。 |
| 所要時間          | ・ 2～4 週間程度                                                |
| 資料            | ・ なし                                                      |
| 事務局の<br>事前準備  | ・ なし（事務局もメンバーの一員としてインタビューを実施または参加する）                      |
| メンバーの<br>事前準備 | ・ 必要に応じて、アイデアの実現可能性検討シートを印刷して用意しておく。                      |

### 実施内容

#### (1) 関係者対話する

|            |                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 何をやるか      | ・ Step 3 で検討した個別ケースと地域の人・団体の取組との重なり合いが実際に実現可能か、関係者との対話を通じて検討し、実現可能性を探る。（再度インタビュー等実施）                                                                                                                                                                       |
| 形式         | ・ フィールドワーク                                                                                                                                                                                                                                                 |
| なぜやるか      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生み出したアイデアが、関係する全員にとって望ましいものか、WIN-WIN になるか、便乗してくれるかは、当事者に聞かないとわかりません。</li> <li>・ 実際に関係者対話することで、自分たちが考えたアイデアへのニーズがあるか、できそうなのか、どのような関わりがあり得るか、実現するには何があると良いのか・何が障壁となるのかといったことを、関係し得る人たちと対話することで見出してみましょう。</li> </ul> |
| 到達目標       | ・ Step 3 で検討したアイデアの実現可能性を知る。                                                                                                                                                                                                                               |
| 資料・<br>ツール | ・ アイデアの実現可能性検討シート                                                                                                                                                                                                                                          |

## 7) Step5 : 振り返り

|               |                                                                                                             |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 目的            | ・ Step 1 ～Step4 までの実施内容をメンバー間で振り返り、地域づくり強化のための体制や制度の活用について検討する。                                             |
| 所要時間          | ・ 2～3 時間程度                                                                                                  |
| 資料            | ・ 事務局資料<br>・ 事務局資料内の各ワークシート ※ワークで使うためのブランク（空欄）のものを用意<br>・ Step4 で作成したワークシート<br>・ ホワイトボードまたは模造紙（必要に応じて付箋、ペン） |
| 事務局の<br>事前準備  | ・ Step4 の結果を事前に簡単に確認しておく。記入されたインタビューシートをとりまとめる。                                                             |
| メンバーの<br>事前準備 | ・ アイデアの実現可能性検討シートに記載し、事務局に提出する。                                                                             |

### 実施内容

#### (1) オープニング

|       |                                                                                 |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 何をやるか | ・ 参加メンバーの今の気持ちを共有する（チェックイン）。                                                    |
| 形式・時間 | ・ 各自発表（1 人 30 秒）                                                                |
| なぜやるか | ・ アイスブレイクとしてリラックスした雰囲気をつくるとともに、全メンバーの今の気持ち（期待や不安）を知ることで当日の進行に役立つ情報が得られるかもしれません。 |
| 到達目標  | ・ メンバーがリラックスした気持ちで参加できる、和やかな雰囲気ができる。                                            |
| 資料    | ・ なし                                                                            |

#### (2) 検証結果を共有する ※Step4 を省略する場合は実施しない

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 何をやるか | ・ Step4 で確かめてきたアイデアの実現可能性について共有する。                                                                                                                                                                                                                                  |
| 形式・時間 | ・ 各自発表（40 分程度）<br>※アイデアの実行プランまで話し合いたい場合は時間を多めに確保する。                                                                                                                                                                                                                 |
| なぜやるか | ・ 本プログラムで実践してきた、個別ケース（特に本人の望みや興味関心）にしっかりと目を向け、地域とのつながりを見つけ、実現していくというプロセスは、重層事業における地域づくりの原理原則と言えます。<br>・ ただし、そこで生まれたアイデアが百発百中実現することはなく、むしろ、たくさんの試行と失敗を繰り返す中で、ちょうど良いタイミングや出会いや機会が重なることで、一人ひとりの本人本位の包括的な支援が実現していくものです。<br>・ これまで検討してきたアイデアが実際に実現できるかどうかに関わらず、このプロセスを振り |

|             |                                                                                                      |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             | <p>返ることを意識しながら Step4 の結果を検証し、たとえアイデアが実現しそうになくても、こうしたプロセスの大切さを全員で確認し合えるような場にしていきましょう。</p>             |
| <b>到達目標</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>本プログラムで実践してきた個別ケースから地域づくりに展開していく考え方やプロセスの意義が見出される。</li> </ul> |
| <b>資料</b>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>事務局資料 2 - ③ p 5 ～ p 7</li> </ul>                              |

### (3) 一体的な地域づくりの必要性や体制について検討する

|              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>何をやるか</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>重層事業における地域づくりについて、改めて振り返る。</li> <li>本プログラムの実践を振り返り、本人本位の包括的な支援や支え・支えられる関係づくりのために、どのような人がどのような行動をすることが必要かを検討する。</li> <li>それを実現するために目指したい体制について意見を交わし、現状とのずれを埋めていくために今後取り組んでいくべきことについて意見を洗い出す（誰かにやってほしいことだけでなく、自分としてできることについても意見を出してもらう）。</li> <li>地域づくり事業を一体的に実施できる重層事業の制度をより活用することができないか、検討する。</li> </ul> |
| <b>形式・時間</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>対話（60～90 分程度）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| <b>なぜやるか</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>本プログラムの総括として、地域づくりとして何を目指していくべきか、目指す姿に対して現状の何を活かすか、または不足しているかを確認し合うことで、メンバーと意識を共有したうえで今後の地域づくりの体制を検討することができます。</li> </ul>                                                                                                                                                                                 |
| <b>到達目標</b>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>重層事業における地域づくりについて、その意義やビジョンが見出される。</li> <li>重層事業における地域づくりを実現するために望ましい体制について、メンバーの一人一人の考えを共有できている。</li> <li>地域づくりのための体制・制度の活用策を具体化し、実現に向けた具体的な取組案をメンバー間で共有する。</li> </ul>                                                                                                                                   |
| <b>資料</b>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>事務局資料 2 - ③ p 8 ～ p 13</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                         |

### (4) クロージング

|              |                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>何をやるか</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>本プログラム全体を通じた感想と今後に向けた意気込みを共有する（チェックアウト）。</li> </ul>                                                                                                                                           |
| <b>形式・時間</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>対話（1 人 30 秒程度）</li> </ul>                                                                                                                                                                     |
| <b>なぜやるか</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>最終回のため、メンバー間または事務局からのフォローアップの必要性を確認するだけでなく、メンバー間で引き続き情報交換やサポートし合える関係ができることが大切です。</li> <li>また、今後に向けた意欲を自分の言葉で語ることで、プログラム終了後の各自の意識や行動へのコミットメント（自分や仲間と約束し責任をもって果たそうとすること）を高めることができます。</li> </ul> |
| <b>到達目標</b>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の気持ち（期待や心配）が共有される。</li> </ul>                                                                                                                                                              |

|            |                            |
|------------|----------------------------|
|            | ・ 自分自身の今後の行動へのコミットメントを高める。 |
| 資料・<br>ツール | ・ なし                       |

## 第4章 まとめ

本事業では市町村がそれぞれの状況に応じて包括的な支援体制の構築を進めることができるよう、各市町村において実施できる研修プログラムのモデルを示すことを目的とし、令和 4 年度の国研修に参加した自治体及び、困り事を抱えている本人を起点に地域全体で本人を支えようとしている自治体の事例を調査した。

その結果を踏まえ、「包括的な支援体制構築に向けた実践プログラム」として、庁内外関係者との協力体制の構築に資するためのチームづくり編と、本人本位の支援を地域と共に実施する取組プロセスをモデル化した地域づくり編に整理した（図表 4-1）。

図表 4-1 本事業で作成した 2 つのプログラム

|         | チームづくり編                                                                                                                                                                                                        | 地域づくり編                                                                                                                                                                                 |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 目的      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ わがまちで連携・協働が必要な具体的なケースを確認しながら、わがまちに必要な体制や取組を検討する</li> <li>・ その過程を通して、各関係者との協力体制を構築する</li> </ul>                                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の価値を発見し、包括的な支援を実現するための地域づくりの考え方について、関係者と共有する</li> <li>・ 重層事業における地域づくりのあり方と体制について、具体的に検討するための足掛かりとする</li> </ul>                              |
| 期待される効果 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 庁内外の主要な関係者とのチームビルディング</li> <li>・ 参加者が包括的な支援体制及び重層事業の必要性について“腹落ち”し、わがまちで起きている問題や活かせそうな取組等を地域共生社会の理念とともに自分の言葉で語る</li> <li>・ 包括的な支援体制の構築に向けてわがまちで取り組むことを具体化する</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加メンバーが地域づくりの意義やビジョンを見出せる</li> <li>・ ビジョンを実現するために必要な体制や行動を見直すことにつなげる</li> <li>・ その結果、ビジョンの明確化や共有、計画への落とし込みや地域づくりの体制（人材・予算）の確保につながる</li> </ul> |
| 主な内容    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ わがまちの連携・協働を振り返る</li> <li>・ 包括的な支援体制構築のための取組アイデアを出す</li> <li>・ 取組アイデアの実行プランをつくる</li> </ul>                                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の関係者にインタビューする</li> <li>・ インタビュー結果を踏まえて重なりを生むアイデアを出す</li> <li>・ 地域づくりのための体制・制度の活用策を具体化する</li> </ul>                                          |

チームづくり編は、関係者との対話や相互理解を重視しながら、個別ケースからわがまちの強みや連携課題を棚卸しし、支援を要する人の暮らしを支える視点や支援者を支える視点を持って、体制構築に向けて取り組むべきことを見出すプロセスとした。

地域づくり編は、地域づくりの体制や重層事業の制度活用策の検討につなげることを念頭に、支援を要する人の願いや願いを叶える地域の活動や場の可能性に着目し、ケース検討や地域の関係者へのインタビューを通じて地域づくりの意義やビジョン、必要な人材や体制を検討するプロセスとした。

各プログラムには、ヒアリング調査をもとに抽出された包括的な支援体制構築に向けて取り組むべき要素を盛り込んだが、プログラム事務局として想定する市町村担当者がこうしたプログラムの企画・運営やファシリテーションに不慣れな場合には、本プログラム市町村の実情等に応じて柔軟に活用して成果を得ることが難しいことも懸念される。また、いずれのプログラムも多部門の関係者或いは庁外の関係機関を参集して相応の参加時間の確保や行動を求めるものであり、事務局がプログラムの必要性や運営方法をイメージできていなければ、参加メンバーの招集をすること自体もハードルになる可能性がある。

そのため、各市町村の事務局となる担当者が本プログラムについて理解を深めたり、実践しながら情報交換をしたり悩みを相談できるような場もあわせて用意することも検討すべきであり、そうした後方支援を都道府県や国が検討していくことが必要である。

あわせて、作成したプログラムの効果や改善点を実証的に確認したり、市町村の状況（例えば人口規模や包括的な支援体制の構築の進捗等）に応じてプログラムを応用できるよう、実践事例や類型別の取組のポイント等を整理していくことが今後求められる。

以上

**<別添資料>**

- 1. チームづくり編参考スライド（事務局資料）**
- 2. 地域づくり編参考スライド（事務局資料）**

包括的な支援体制構築に向けた実践型プログラム  
(チームづくり編)

# Step1 キックオフ／わがまちの連携・協働を振り返る

20XX年XX月XX日 (X) XX:XX～XX:XX

# タイムスケジュール

| 時刻    | 形態<br>(時間)   | 内容                               |
|-------|--------------|----------------------------------|
| XX:XX | 対話<br>(15分)  | ・ オープニング                         |
| XX:XX | 講義<br>(65分)  | ・ 包括的な支援体制の構築に向けた連携・協働について理解を深める |
| XX:XX | 対話<br>(60分)  | ・ わがまちの連携・協働を振り返る                |
| XX:XX | ワーク<br>(30分) | ・ Step2に向けた準備                    |

# 1

1. オープニング
2. 包括的な支援体制の構築に向けた連携・協働について理解を深める
3. わがまちの連携・協働を振り返る
4. Step2に向けた準備

# 1. オープニング ー本プログラムの趣旨

## 到達 目標

このプログラム全体を通じて、以下の状態になることを目指します。

- ✓ 参加メンバーが地域づくりの意義やビジョンを見出せる。
- ✓ ビジョンを実現するために必要な体制や行動を見直すことにつなげる。
- ✓ その結果、ビジョンの明確化や共有、計画への落とし込みや地域づくりの体制（人材・予算）の確保につながる。

| Step | 形式 | 内容                                                                                                                                                                                                                                      |
|------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1    | 集合 | <b>キックオフ／わがまちの連携・協働を振り返る（2.5～3時間程度）</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 包括的な支援体制の構築に向けた連携・協働について理解を深める</li><li>・ わがまちの連携・協働を振り返る</li></ul>                                                                                      |
| 2    | 集合 | <b>包括的な支援体制構築のための取組みアイデアを出す（3時間程度）</b><br>※メンバーの時間確保ができるようならStep1と同日に実施することも可能 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 連携が必要な個別ケースを共有する</li><li>・ 個別ケースをもとにわがまちの強みや課題を確認し、取組みアイデアを出す</li><li>・ アイデアの妥当性や実現性を確認するためのアクションを検討する</li></ul> |
| 3    | 集合 | <b>取組みアイデアの実行プランをつくる（2～3時間程度）</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ Step3以降の各自のアクションを共有する</li><li>・ 今後の取組アイデアの企画を具体化する</li></ul>                                                                                                  |

# 1. オープニング —メンバー自己紹介

- 目標**      ✓ メンバー同士が、それぞれの立場や専門性や個性等、何かしらを知る。

## <趣旨>

- これから一緒にプログラムを進めていくにあたり、メンバー同士がそれぞれの所属や日ごろの業務、専門性を知っておくことで、誰に何を頼ることができそうなのか、どんな風に頼るとよさそうかを知ることが大切です。
- メンバー同士がそれぞれを知っておくことで、今後の対話や実践の活性化につながります。

## <実施内容>

- 自己紹介をしましょう（1人1分程度）

（自己紹介項目の例）

- 氏名・所属・日ごろの業務
- 最近のマイブーム、うれしかったこと、・・・等

# 2

1. オープニング
2. 包括的な支援体制の構築に向けた連携・協働について理解を深める
3. わがまちの連携・協働を振り返る
4. Step2に向けた準備

## 2. 包括的な支援体制の構築に向けた連携・協働について理解を深める

### 一 目標と実施内容

#### 目標

- ✓ 連携における課題への理解を深める。連携にあたって求められる姿勢や作法を理解する。

#### <趣旨>

- 連携や協働という言葉はよく使われますが、抽象的な概念なので関係者同士が違ったイメージを持っていたり、そのためにかみ合わなかったりすることがあります。そのため、連携・協働の基本的な考え方の認識合わせをし、共通言語を持っておくことが大切です。
- ここで紹介する動画では、現場の専門職が日ごろ感じている連携における課題を共有します。自分にも思い当たることや共感することがないか、日ごろのことを振り返りながら聴きましょう。

#### <実施内容>

- 動画視聴または講義（65分）

# 3

1. オープニング
2. 包括的な支援体制の構築に向けた連携・協働について理解を深める
3. わがまちの連携・協働を振り返る
4. Step2に向けた準備

### 3. わがまちの連携・協働を振り返る

#### 一 目標と実施内容

##### 目標

- ✓ 連携において日ごろ感じていることをメンバーと共有する。
- ✓ メンバーや関係者の見ている景色について、自分との違いを発見し、理解する。

##### <趣旨>

- 具体的な連携課題を洗い出すことに加え、それぞれの価値観や考え方などの多様性を理解するように努めましょう。
- 連携にあたっては、相手の立場に立った姿勢や言動が大切です。連携のストレスは、関係者間の専門性や価値観の違いや自分の思い込み（バイアス）があることが考えられます。それぞれがどのような価値観やものの見方をしているのか、相手が見ている景色を理解し、相手の立場に立ったものの見方ができるように聴きましょう。

##### <実施内容>

- これまでに体験した「困った連携」「良かった連携」を共有する。
- なぜ「困った連携」「良かった連携」が起こったのか、思い当たる理由も添える。

# 4

1. オープニング
2. 包括的な支援体制の構築に向けた連携・協働について理解を深める
3. わがまちの連携・協働を振り返る
4. Step2に向けた準備

## 4. Step2に向けた準備

### 一 目標と実施内容

#### 目標

- ✓ Step2に向けて、自分の役割を理解している。

#### <趣旨>

- Step2ではわがまちの実際の個別ケースをもとに連携・協働における機会や課題を考え、具体的な取組アイデアを考えます。
- Step2には個別ケースの提供が必要不可欠なので、事前にStep2の内容について共通認識を持ち、個別ケースの情報提供や準備に皆で協力して取り組みましょう。

#### <実施内容>

- Step2の趣旨と事前準備として必要なことについて確認する。
- 役割分担（誰がどんな個別ケースを持ち寄るか等）を決める。

## 4. Step2に向けた準備 ーStep2の実施内容

### Step2 の目的

- ✓ 個別ケースを踏まえてわがまちの強み・課題を確認する。
- ✓ 包括的な支援体制構築のための取組みアイデアを出す。
- ✓ 取組アイデアの妥当性・実現性を確認するためのアクションプランを立てる。

### <準備事項>

- Step2で検討したいケースの情報を「ケース検討シート」に整理し、事務局に提出する。
- 事務局は、当日取り上げるケースを関係者と相談の上決める。
- 必要に応じて、ケース情報の提供者と事務局で、追加情報の要否を検討する。
- Step2で検討するケースの情報は、事前に事務局から参加メンバーに共有し、メンバーは可能な限り確認しておく。

## 4. Step2に向けた準備 ーStep2の実施内容

### <個別事例のピックアップについて>

- ✓ 複数の支援機関が関わった事例を取り上げましょう。
- ✓ 介護・障がい・子育て・生活困窮などの既存の制度の狭間にある事例や複合化した課題を抱えている世帯などの事例について、まちで実際に見かけるケースを取り上げましょう。（8050,ダブルケア,若年妊娠,等）
- ✓ 振り返りができるよう、取り上げるのは過去の事例で構いません。
- ✓ うまく連携できた事例とそうでない事例を、最低 1 件ずつ選定ください。
- ✓ チームでケーススタディにかけられる時間に応じて、実施可能な件数を取り上げてください。（特に上限の指定はありません）
- ✓ 個別事例の基礎情報は、支援機関の担当者が自身で書いても構いませんし、チームメンバーが事例担当者にインタビューをして書いても構いません。
- ✓ 日ごろ個別支援に直接関わっていない行政担当者は、この機会に事例担当者にインタビューしてみましょう。

## 4. Step2に向けた準備 ケース検討シート

| ケーススタディの題材とする個別事例の情報                                |                        |                   |
|-----------------------------------------------------|------------------------|-------------------|
| 対象者の概要                                              | 当初の状況                  | 支援の経過・結果          |
| 上段は、チームメンバーと共有するための支援事例の概要をインタビュー等によって記載してください。     |                        |                   |
| 対象者の基本的な情報や<br>生活課題・望む暮らし・<br>興味関心等について<br>記載してください | 対象者の当初の状況を<br>記載してください | 支援の経過・結果を記載してください |

| 上記の個別事例に対してチームで検討しよう                    |                                                                                                                                    |
|-----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 内容                                      | その要因や理由                                                                                                                            |
| うまく連携できたと思<br>うこと                       | <p>下段は、上段の支援事例に対して、<br/>当事者の望む暮らし・ありたい姿の実現に向けてうまく連携できたこと、できなかったことを<br/>チームで検討してください。<br/>また、それぞれについて要因や理由として考えられることも検討してみましょう。</p> |
| うまく連携できなかったことや、<br>あったらよかったと思う<br>こと・機能 |                                                                                                                                    |

## 4. Step2に向けた準備 ーケース検討シート（記入例）

### ケーススタディの題材とする個別事例の情報

| 対象者の概要                                                                                                                                                                                                                           | 当初の状況                                                                                                                                                                                                                                                           | 支援の経過・結果                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>対象者：Aさん、50代、男性</li> <li>80代の母親、50代の弟と同居。Aさん、弟ともに就労しておらず、母親の年金収入のみで生活を送る。</li> <li>月約14万円程の収入である。</li> <li>コロナの影響を受けて3年半程前に仕事を辞め、昨年夏ころから自身の部屋に引きこもる状態が続いている。</li> <li>めまい等の症状有。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>母親が体調不良となり入院したことをきっかけに、生活に漠然と不安を抱えたAさんは親族へ相談。親族から民生委員へ相談が入った。</li> <li>退院し自宅にて生活を送るようになった母親だが、介助が必要な状況であり、主にAさんが母親の介護、家事を担っていた。</li> <li>Aさんの弟は債務を抱えていた。</li> <li>母親は生活保護受給を考えるも、Aさんは生活保護受給に抵抗があり、手続きが進まなかった。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>母親が適切な介護サービスを受ける必要があると判断<br/>→ 地域包括支援センターと連携を図る。<br/>→ 介護認定を受け、介護サービスの利用開始。<br/>→ Aさんの介助負担の軽減につながった。</li> <li>Aさんと弟は就労意欲があり、自立した生活を送ってきたいとの意向を確認。併せて弟は債務整理をする必要があると判断。<br/>→ 自立相談支援機関と連携を図る。<br/>→ 就労及び債務整理に向けた支援を開始。<br/>→ Aさん、弟ともに就労を開始した。</li> </ul> |

### 上記の個別事例に対してチームで検討しよう

| 内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | その要因や理由                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| うまく連携できたと思うこと <ul style="list-style-type: none"> <li>「親族」から「民生委員」に対し、本世帯に係る状況がしっかり伝わった。</li> <li>「民生委員」から「多機関協働事業者」に対し、ケース概要が適切に情報提供された。</li> <li>「多機関協働事業者」から、母親の支援を「地域包括支援センター」に、本人及び弟の支援を「自立相談支援機関」に適切に繋ぐことができた。</li> <li>関係機関同士の普段の連携や、重層的支援会議において、世帯としての支援状況の進捗確認その他必要な協力体制を取ることができた。</li> </ul>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>「民生委員」が普段から着実に地域福祉活動を行い、地域住民に存在が認識されるとともに信頼を得ていた。</li> <li>「多機関協働事業者」の取組が、地縁組織（民生委員）に浸透しつつある。</li> <li>「多機関協働事業者」の適切なアセスメント及び「地域包括支援センター」「自立相談支援機関」を含め、本世帯の支援に係る役割分担や連携体制の構築が適切に行われていた。</li> </ul> |
| うまく連携できなかったことや、あったらよかったと思うこと・機能 <ul style="list-style-type: none"> <li>母親の体調不良や入院がなければ、今回の支援に繋がらなかったのではないかと→もっと早い段階で、本人たちが自分たちの置かれている状況を認識して、より良い生活に向け考えるきっかけが持てればよかった。</li> <li>地域で自由参加の「生活相談会」のようなものが開催されていたとしても、このケースはおそらく参加していなかったのではないかと。このことから、支援者側から「何か困ったことはありませんか」問いかけられる仕組みがあるとよかった。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>目の前の生活が最低限過ぎせてさえいれば、中長期的な生活がどうなっているかについて（意識・無意識的に）目を背けてしまうケースが一定程度存在すると思う。</li> </ul>                                                                                                              |

## 4. Step2に向けた準備 ーStep2に向けた準備シート

### 目標

✓ Step2に向けて取り組むことと担当・期限を決める。

| No  | Step2までに取り組むこと（例）                      | 担当                 | 期限 |
|-----|----------------------------------------|--------------------|----|
| 1   | 個別の支援事例の情報収集                           | 各項目の担当と期限を決めてください。 |    |
| 2   | まちの統計情報の準備                             |                    |    |
| 3   | チームメンバー打ち合わせの準備（招集・場所の確保・資料準備等）        |                    |    |
| 4   | ワークシートとりまとめ・提出                         |                    |    |
| 5   | 取り組むことについては、既定の項目の他に各市町村で自由に設定して構いません。 |                    |    |
| 6   |                                        |                    |    |
| ... |                                        |                    |    |

包括的な支援体制構築に向けた実践型プログラム  
(チームづくり編)

## Step2 包括的な支援体制構築のための取組アイデアを出す

20XX年XX月XX日 (X) XX:XX~XX:XX

# タイムスケジュール

| 時刻    | 形態<br>(時間)            | 内容                                  |
|-------|-----------------------|-------------------------------------|
| XX:XX | 対話<br>(15分)           | ・ オープニング                            |
| XX:XX | ワーク<br>(1ケース約<br>10分) | ・ 連携が必要な個別ケースを共有する                  |
| XX:XX | ワーク<br>(100分)         | ・ 個別ケースをもとにわがまちの強みや課題を確認し、取組アイデアを出す |
| XX:XX | ワーク<br>(30分)          | ・ アイデアの妥当性や実現性を確認するためのアクションを検討する    |

# 1

1. オープニング
2. 連携が必要な個別ケースを共有する
3. 個別ケースをもとにわがまちの強みや課題を確認し、取組アイデアを出す
4. アイデアの妥当性や実現性を確認するためのアクションを検討する

### チェックイン

- 今の気持ち（期待や不安）を話してみましょう。
- 時間は1人30秒です。

# 2

1. オープニング
2. 連携が必要な個別ケースを共有する
3. 個別ケースをもとにわがまちの強みや課題を確認し、取組アイデアを出す
4. アイデアの妥当性や実現性を確認するためのアクションを検討する

## 2. 連携が必要な個別ケースを共有する — 目標と実施内容

### 目標

- ✓ わがまちで連携・協働が必要なケースを知る。

### <趣旨>

- 包括的な支援体制の構築は、わがまちの実情にあった必要な取組を関係者との合意のもとに積み上げていき、実現されるものです。
- 関係者と合意していくために重要なのは、連携が必要な個別ケースの実態や連携にあたり実際に起きている課題が共有されていることです。そうした根拠に基づく取組でなければ、何のための仕組みや取組なのかは理解されませんし、本当に必要な仕組みかどうかもわかりません。そのため、包括的な支援体制の構築に向けた取組は個別ケースを起点に考えることが基本的な原則と言えます。
- この後の工程でわがまちの強み・課題の棚卸しや取組アイデアを検討していくための基盤となるよう、連携が必要などのようなケースがあるのか、どのような連携課題があるのかを参加メンバーとともに確認しましょう。

### <実施内容>

- 多分野の関係機関・関係者との連携が必要と思われるケースを共有する。

## 2. 連携が必要な個別ケースを共有する 一目標と実施内容

- 情報提供されるケースについて、うまく連携できたことやできなかったこと、必要な機能等について考えながら聴きましょう。

| ケーススタディの題材とする個別事例の情報                     |         |          |
|------------------------------------------|---------|----------|
| 対象者の概要                                   | 当初の状況   | 支援の経過・結果 |
|                                          |         |          |
| 配布されたケース情報をもとに共有<br>上記の個別事例に対してチームで検討しよう |         |          |
| 内容                                       | その要因や理由 |          |
| うまく連携できたこと                               |         |          |
| うまく連携できなかったことや、<br>あったらよかったと思うこと・機能      |         |          |

# 3

1. オープニング
2. 連携が必要な個別ケースを共有する
3. 個別ケースをもとにわがまちの強みや課題を確認し、取組アイデアを出す
4. アイデアの妥当性や実現性を確認するためのアクションを検討する

### 3. わがまちの強みや課題を確認し、取組アイデアを出す ー目標と実施内容

#### 目標

- ✓ ケースに根差した取組アイデアが複数挙がる。
- ✓ そのアイデアの必要性についてメンバー間で共有される。

#### <趣旨>

- 重層事業は困難ケースを解決するための「打ち出の小槌」ではなく、個別ケースをもとに、わがまちの強み弱みを認識して必要な対応を積み重ねていくものです。
- ここではその一連の流れを参加メンバーとともに体感・共有し、関係者とのより良い連携・協働のために必要な取組や体制の企画につなげていきます。

#### <実施内容>

- 本人本位の包括的な支援を実現するうえで、わがまちの強みと課題を確認する。
- 強みを活かす、課題を克服するという視点で、関係者のより良い連携・協働のために取り組みたいことのアイデアを出す。

### 3. わがまちの強みや課題を確認し、取組アイデアを出す ーわがまちの強み・課題検討シート

| 場面・フェーズ               | 当事者にとって望ましい支援を実現するために・・・                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                     |
|-----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|
|                       | ①できていると思うこと<br>（「偶然・時々」できていることもOK！）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | ②できたらよい・あったらよいと思うこと |
| 対象者の状況把握              | <p>ケーススタディで挙げた、うまく連携できたこと・あったらよいと思うことを踏まえ、わがまちで、できていることを①に、できたらよい・あったらよいと思うことを②に、支援の場面・フェーズごとに挙げてみましょう。</p> <p>＜支援の場面・フェーズのイメージ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●対象者の状況把握<br/>世帯等へのアプローチ、相談支援までのつなぎなど、相談につながりにくかった世帯に対する関係構築などを想定</li> <li>●支援関係機関における連携と自律に向けた支援<br/>複雑化・複合化した課題について、情報共有や支援方針の検討、役割分担など支援関係機関の連携、本人の生活意識の変化に向けた支援方策の検討や提示などを想定</li> <li>●地域等とのつながり<br/>本人の暮らしの中でのつながりを活かすこと、地域資源の発見や開発、地域社会とのつながりづくりなどを想定</li> <li>●継続的な支援<br/>支援終了後、何か状況変化があった場合の連絡など継続的な支援などを想定</li> </ul> |                     |
| 支援関係機関における連携と自律に向けた支援 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                     |
| 地域等とのつながり             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                     |
| 継続的な支援                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                     |

#### ③取り組むべき・取り組みたいこと

①のできていることを、「継続的に・いつも」できるようにするために考えられることや、  
②のできたらよい・あったらよいと思うことを実現するために考えられることを  
チームで検討してみましょう。

初めから1つに絞り込む必要はなく、考えられるものを複数挙げてみてください。

# 4

1. オープニング
2. 連携が必要な個別ケースを共有する
3. 個別ケースをもとにわがまちの強みや課題を確認し、取組アイデアを出す
4. アイデアの妥当性や実現性を確認するためのアクションを検討する

## 4. アイデアの妥当性や実現性を確認するためのアクションを検討する 一目標と実施内容

### 目標

- ✓ 取組アイデアが妥当か、実現可能かを確認するために、誰と何を確認・対話をすべきかが具体的にイメージできている。
- ✓ Step3に向けてそれぞれの役割やスケジュールが明確になっている。

### <趣旨>

- 参加メンバーだけで考えた取組アイデアが、そこに参加していない関係者にとって納得できるものでなければ、賛同や協力を得ることができません。
- 参加メンバーと考えた取組アイデアのうち優先度が高そうなものを絞り込み、ここに参加していない関係者の意見を聞いてみる大切です。

### <実施内容>

- 取り組みアイデアの優先順位を検討し、アイデアの妥当性・実現性や優先順位を確認するために更に調査すべきことを検討する（関係者へのヒアリング、検討材料となる資料の確認等）。

## 4. アイデアの妥当性や実現性を確認するためのアクションを検討する ー取組アイデア検討シート

### (1) 最初に取り組みたいアイデアとその理由

わがまちのより良い「連携」や「協働」のために、最初に取り組みたいと思うこととその理由を記載してください。

※前ページの③に挙げた「取り組むべき事・取り組みたいこと」を踏まえて検討ください。

取組アイデアは、関係者の問題意識にもとづくものであればどんなものでも構いませんが、小さな成功体験を積み重ねることが大切です。あまりに壮大なものや時間がかかりそうなもの・難しそうなものよりも、重要かつ実現できそうなものを挙げると良いでしょう。例えば過去の研修では、庁内向け研修、会議の際のグランドルールの整備、情報共有の様式作成、重層会議の試行、福祉現場ツアーなどが企画されました。

### (2) 更に調べたり検討したりしたいこと

取組アイデアの妥当性・実現性や優先順位を確認するために  
更に調査や検討が必要と思うことを洗い出しましょう。

4. アイデアの妥当性や実現性を確認するためのアクションを検討する  
ーStep3に向けた準備シート

|    |                              |
|----|------------------------------|
| 目標 | ✓ Step3に向けて取り組むことと担当・期限を決める。 |
|----|------------------------------|

| No  | Step2までに取り組むこと（例） | 担当 | 期限 |
|-----|-------------------|----|----|
| 1   |                   |    |    |
| 2   |                   |    |    |
| 3   |                   |    |    |
| 4   |                   |    |    |
| 5   |                   |    |    |
| 6   |                   |    |    |
| ... |                   |    |    |

包括的な支援体制構築に向けた実践型プログラム  
(チームづくり編)

## **Step3** **取組アイデアの実行プランをつくる**

20XX年XX月XX日 (X) XX:XX~XX:XX

# タイムスケジュール

| 時刻    | 形態<br>(時間)     | 内容                      |
|-------|----------------|-------------------------|
| XX:XX | 対話<br>(15分)    | ・ オープニング                |
| XX:XX | 発表・対話<br>(60分) | ・ Step2以降のアクションの結果を共有する |
| XX:XX | ワーク<br>(60分)   | ・ 今後の取組アイデアの企画を具体化する    |
| XX:XX | 対話<br>(10分)    | ・ クロージング                |

# 1

1. オープニング
2. Step2以降のアクションの結果を共有する
3. 今後の取組アイデアの企画を具体化する
4. クロージング

# 1. オープニング

## チェックイン

- 今の気持ち（期待や不安）を話してみましょう。
- 時間は1人30秒です。

# 2

1. オープニング
2. Step2以降のアクションの結果を共有する
3. 今後の取組アイデアの企画を具体化する
4. クロージング

## 2. Step2以降のアクションの結果を共有する 一目標と実施内容

### 目標

- ✓ 包括的な支援体制構築に向けた取組アイデアに優先順位つけ、実行に移していくものを絞り込む。

### <趣旨>

- この後の工程で取組アイデアの具体的な企画を考えるための材料を共有します。
- 参加していないメンバーの反応やニーズは、企画の修正やブラッシュアップのために有用な情報となるため、何ができそうか、実現するには何が必要かを考えながらアクションの結果を振り返りましょう。

### <実施内容>

- Step2で検討した「アイデアの妥当性や実現性を確認するためのアクション」の結果を共有し、妥当性や実現可能性を確認し合う。

# 3

1. オープニング
2. Step2以降のアクションの結果を共有する
3. 今後の取組アイデアの企画を具体化する
4. クロージング

### 3. 今後の取組アイデアの企画を具体化する ー目標と実施内容

#### 目標

- ✓ 包括的な支援体制構築に向けた取組アイデアとそれを実現するためのプランを立てるための意見が洗い出される。

#### <趣旨>

- 包括的な支援体制の構築や重層事業の成果は数値化しづらいため、その効果や手応えをストーリーとして語れることが重要です。
- わがまちの個別ケースや連携課題を踏まえて、今回考えた取組アイデアがなぜ必要なのか、実現することでどのような効果が期待できるか、実現のためのプロセス（手順や関係者）はどういったものかという設計を整理しておくことで、関係者に説明しやすく・賛同も得やすくなり、実施後の手応えも評価しやすくなります。
- また、参加メンバーが考えた取組アイデアは、そのプロセスを一緒に経験していない他の関係者から見れば唐突に思えるかもしれません。そうした他の関係者への広がり意識した実行プランをつくることが大切です。

#### <実施内容>

- 絞り込んだ取組アイデアについての実行プランをつくるための意見を出す。
- そのアイデアを本プログラムの参加メンバー以外にも広げたり合意形成をしたりすることも見据えた作戦を練る。

### 3. 今後の取組アイデアの企画を具体化する ー取組アイデアの企画書（ひな形）

|                  |                                                                                                 |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 取組アイデア           |                                                                                                 |
| なぜこの取組が必要か       | 個別ケースの検討から開始して、なぜこの取組アイデアが最後に絞られたのか、個別ケースや連携課題に根差した問題意識や優先順位の考え方について、これまで対話してきた要素を洗い出し整理する。     |
| 取り組むことにより期待される効果 | これに取り組むことにより、当初考えた問題意識がどのように解決されるか。それが、支援を必要する本人・世帯や地域、あるいは包括的支援体制にどのような影響を与えるかについて意見を洗い出し整理する。 |
| 連携・協働すべき関係者      | この取組またはその実現に向けて一緒に取り組んでいくべき関係者を洗い出す。                                                            |
| 実現に向けた段取り        | いつ頃までに実現するのか、そのためにいつまでに何をすべきかを逆算して計画を立てる。                                                       |

# 4

1. オープニング
2. Step2以降のアクションの結果を共有する
3. 今後の取組アイデアの企画を具体化する
4. クロージング

### チェックアウト

- プログラム全体を通じた感想と今後に向けた意気込みを共有しましょう。

包括的な支援体制構築に向けた実践型プログラム  
(地域づくり編)

# Step1 キックオフ／インタビュー計画を立てる

20XX年XX月XX日 (X) XX:XX～XX:XX

# タイムスケジュール

| 時刻    | 形態<br>(時間)            | 内容                                |
|-------|-----------------------|-----------------------------------|
| XX:XX | 説明<br>(20分<br>～40分)   | ・ 重層事業における地域づくりの考え方とプログラムの趣旨を共有する |
| XX:XX | 対話<br>(1人1分<br>程度)    | ・ 参加メンバーを知る                       |
| XX:XX | ワーク<br>(1ケース10<br>分)  | ・ 地域資源を洗い出す①（ケース共有）               |
| XX:XX | ワーク<br>(30分)          | ・ 地域資源を洗い出す②（ケース選定と地域資源の洗い出し）     |
| XX:XX | ワーク<br>(30分)          | ・ インタビュー計画を立てる                    |
| XX:XX | 各自発表<br>(1人30秒<br>程度) | ・ クロージング                          |

# 1

1. 重層事業における地域づくりの考え方とプログラム趣旨を共有する
2. 参加メンバーを知る
3. 地域資源を洗い出す①（ケース共有）
4. 地域資源を洗い出す②  
（ケース選定と地域資源の洗い出し）
5. インタビュー計画を立てる
6. クロージング

# 1. 重層事業における地域づくりの考え方とプログラム趣旨を共有する

## 一重層事業における地域づくりの考え方

**目標** ✓ 資料を参照し、重層事業における地域づくり事業の考え方について確認しましょう。

- 重層事業によって、市町村の創意工夫で福祉4分野を一体的に進めることが可能です。
- 地域づくりは、本人本位の包括的な支援や支え・支えられる関係づくりを目指すものです。

### 重層事業における「地域づくり」事業とは

重層事業の開始とは関係なく、「地域づくり」自体はこれまでも各自治体で進められてきたものでもあります。現状を踏まえて、どのような課題感から重層事業における「地域づくり」事業が設計されているのかについて、重層事業の背景にある「地域共生社会」に関する議論も引用していきながら整理していきます。

#### 「地域づくり」の現状と課題

重層事業の「地域づくり事業」は以下の5事業から構成されています。

#### 「地域づくり」事業を構成する5事業

| 分野   | 事業名                 |
|------|---------------------|
| 介護   | 地域介護予防活動支援事業        |
|      | 生活支援体制整備事業          |
| 障害   | 地域活動支援センター機能強化事業    |
| 子ども  | 地域子育て支援拠点事業         |
| 生活困窮 | 生活困窮者支援等のための地域づくり事業 |

「地域づくり」事業は、「参加支援事業」や「アウトリーチ等を通じた継続的支援事業」と異なり、新たに作られた制度ではなく、既存の5事業を一つにまとめた事業となります。そのため、今まで実施してきた「地域づくり」事業に加えて、「重層事業における「地域づくり」として何をやるべきか」という点について具体的なイメージがつかめず、課題感を抱えている自治体が多いことも見えてきました。

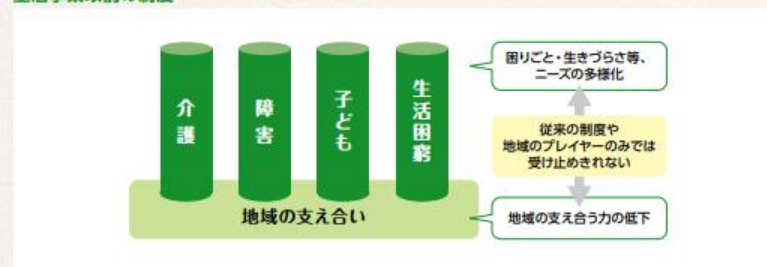
今までも「地域づくり」は行われていたにもかかわらず、重層事業の「地域づくり」事業として4分野(5事業)を一体的に実施することを必要とする背景として大きく以下の2点が挙げられます。

- ニーズ(困りごと)の多様化
- 地域の支え合う力(人と人のつながりによる住民自身の課題解決力)の低下

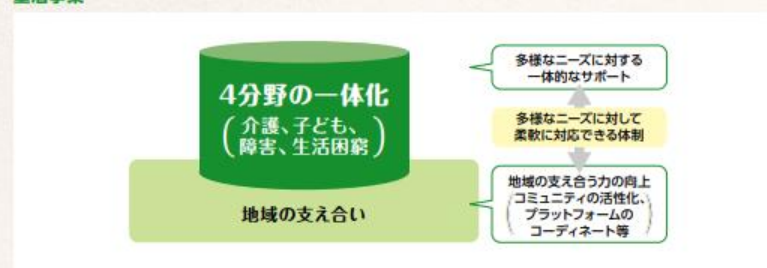
### 「地域づくり」事業で求められること

上記の実情を踏まえて、重層事業の「地域づくり」事業では、①4分野の事業を一体的に運用することだけでなく、②地域における個人や共同体の活動の活発化・コーディネートを行い地域の「支え合う力」を向上・再構築することで、多様なニーズに対応していくことを目的としています。

#### 重層事業以前の制度



#### 重層事業



これまでは各制度の担当職員が、各制度やサービスの範囲内で困りごとを抱える当事者に対してのサポートを検討してきましたが、重層事業において制度の垣根が低くなり、風通しが良くなったことによって、各分野の職員同士が情報を共有し「使える制度はないか」「制度の狭間の部分はどうか対応するか(地域と共にサポートできる体制・仕掛けは作れないか)」といった形で、もともとの制度の枠を超えて、当事者に対する適切なサポートのあり方を検討しやすい体制ができています。

# 1. 重層事業における地域づくりの考え方とプログラム趣旨を共有する

## 一重層事業における地域づくりの考え方

繋がるってどういうことだろう？

たくさん出たアイデアの中から具体的な提案へ

その際に大事なこと！

ギャンブル依存があるAさん  
「昼間どこかに行けるといいんですけど・・・」

+

「実は数年前までは一流ホテルで料理人していたこともあって」

でもおしゃべりが得意じゃないんです」  
どこかで人の役に立ちたい思いもあるみたいで」

どちらかという支援  
者のニーズや見立て



本人ができることや誇りに思っていること、不安なことも伝える



子ども食堂の食事を作るお手伝いとかお願いできないかな・・・

聞いた人がどのようなイメージでとらえられるか。支援が必要な人だけど、その人の過去歴やこんなこと  
もしてみたいを知っていたら、これならできるかも。これだと活躍できるかもが広がる。

高齢者にとってはいつもの集いの場であるサロン。ほかの人たちにも活用の可能性。

いつものサロンは、子どもたちの夏休みのボランティア参加の場  
に。きっかけがあったことで、地域の子もたち  
と高齢者がつながることも。子供だけでなく、  
引きこもりなど新たな社会参加を求めている人



がお茶出しをしてみたり。  
朝市でお手伝いに繋がったり。今までの活用の仕方と  
これからの活用の可能性。



それは地域支援や地域作りでも同じこと（さまざまな場や活動、イベントにおいても協働できたら）

例えばちくちくプロジェクト！！

水害にあった地域が雑巾を求めているから、雑巾を作って送ろうという  
企画をしたところ。。

賛同して、協力してくれたのは、障  
がいのある方々であり、ちょっとした  
居場所を求めている一人暮らしの



高齢者だった。  
役割がある。  
参加の形  
のきっかけ。



困り感や強い思いを語ってくれたことで  
繋がった人と人

人々が欲しい！  
活躍したい☆シ



生活支援コー  
ディネーター



就労担当  
相談員



ワンコインで地域の  
高齢者のお困りごと  
の支援をしているお  
助け隊！  
最近、草取りのニー  
ズも多いのだけど、  
草の量が多くてたく  
さん支援しようと  
思ってもね・・・。  
新しい**若手**が欲しい  
のだけど。。

鎌も使うし、危ないだろう・・・  
刈り取った草を袋に集めてもらうことなら**できる**かな。。

助かったな～。**ありがたい**な～。次も来てくれるか？  
ピブスも渡して**仲間に入**ってもらえると。。

もっと地域の活動に参  
加したいのだけど。  
何か障がいのある方々  
と一緒に**活躍できる場**  
はないだろうか？



就労B型で働く障がい  
のある方々

# 1. 重層事業における地域づくりの考え方とプログラム趣旨を共有する ープログラム全体の到達目標と進め方

## 到達 目標

このプログラム全体を通じて、以下の状態になることを目指します。

- ✓ 参加メンバーが地域づくりの意義やビジョンを見出せる。
- ✓ ビジョンを実現するために必要な体制や行動を見直すことにつなげる。
- ✓ その結果、ビジョンの明確化や共有、計画への落とし込みや地域づくりの体制（人材・予算）の確保につながる。

### Step1 キックオフ／インタビュー計画を立てる

説明  
(重層事業における地域づくりの考え方とプログラムの趣旨を共有する)



対話  
(参加メンバーを知る)



ワーク  
(地域資源を洗い出す)



ワーク  
(インタビュー計画を立てる)



### Step2 地域の関係者にインタビューする

インタビュー  
(地域に足を運ぶ)



+

個別ケースの情報を補強する  
(※必要に応じて実施)



### Step3 重なりを生むアイデアを出す

ワーク  
(インタビュー結果の共有)



ワーク  
(個別ケースとの重なりを生む  
アイデア出し)



ワーク  
(Step4に向けた準備)

### Step4 アイデアの実現可能性を検証する

フィールドワーク  
(関係者と対話する)



### Step5 振り返り

発表  
(Step4の結果共有)



対話  
(一体的な地域づくりの必要性や体制について検討する)



# 2

1. 重層事業における地域づくりの考え方とプログラム趣旨を共有する
2. 参加メンバーを知る
3. 地域資源を洗い出す①（ケース共有）
4. 地域資源を洗い出す②  
（ケース選定と地域資源の洗い出し）
5. インタビュー計画を立てる
6. クロージング

## 2. 参加メンバーを知る ー目標と実施内容

- 目標**      ✓ メンバー同士が、それぞれの立場や専門性や個性等、何かしらを知る。

### <趣旨>

- これから一緒に地域づくりの体制を考えていくにあたり、メンバー同士がそれぞれの所属や日ごろの業務（特に地域づくりに関連する業務）、個性や専門性を知っておくことで、誰に何を頼ることができそうなのか、どんな風に頼るとよさそうかを知ることが大切です。
- メンバー同士がそれぞれを知っておくことで、今後の対話や実践の活性化につながります。

### <実施内容>

- 自己紹介をしましょう（1人1分程度）

（自己紹介項目の例）

- 氏名・所属・日ごろの業務（特に地域づくりに関連する業務）
- 自分の「地域の中の5つの顔」
- 夏の思い出、今年一番うれしかったこと、最近のマイブーム・・・等

# 3

1. 重層事業における地域づくりの考え方とプログラム趣旨を共有する
2. 参加メンバーを知る
3. 地域資源を洗い出す①（ケース共有）
4. 地域資源を洗い出す②  
（ケース選定と地域資源の洗い出し）
5. インタビュー計画を立てる
6. クロージング

### 3. 地域資源を洗い出す①（ケース共有）

#### 一 目標と実施内容

##### 目標

- ✓ 地域とのつながりが必要そうな実際のケースを共有し、地域づくりの必要性について認識が共有されている。

##### <趣旨>

- 地域づくりや地域住民との関わりは、本人本位の包括的な支援、支え・支えられる関係づくりのために必要なことへの理解を深めるために、地域との関わりが必要そうなケースを共有します。

##### <実施内容>

- プログラム開始前に集めた複数のケースに関する情報をメンバー同士で共有しましょう。その際、抱えている課題だけではなく、その人が地域で持てそうな役割や強み等も考えてみましょう。
- 時間は1ケース10分程度です。

### 3. 地域資源を洗い出す①（ケース共有）

#### ーMemo

- 発表者以外のメンバーは、「地域とのかかわりが必要そうなケースはどれか？」という視点を持ちながら聞きましょう。

# 4

1. 重層事業における地域づくりの考え方とプログラム趣旨を共有する
2. 参加メンバーを知る
3. 地域資源を洗い出す①（ケース共有）
4. 地域資源を洗い出す②  
（ケース選定と地域資源の洗い出し）
5. インタビュー計画を立てる
6. クロージング

## 4. 地域資源を洗い出す②（ケース選定と資源の洗い出し）

### 一 目標と実施内容

#### 目標

- ✓ 本人本位の支援、支え・支えられる関係づくりには、様々な資源（活動や地域住民）が関わり得ることを理解する。

#### <趣旨>

- 実践で地域の関係者にインタビューをしていくにあたり、闇雲にインタビューをするのではなく、地域とのつながりが必要な人のイメージを頭に置きながらインタビュー対象者を洗い出したり実際にインタビューすることができます。

#### <実施内容>

- さきほど共有したケースの中から多様な関係者の協力が必要そうなケースを1～3つ選定し、そのケースに関わる資源（活動や関係しそうな人）を多様な視点で洗い出しましょう。
- さらに、福祉分野に限らず、メンバーが把握している地域で活躍している人・団体や地域にネットワークがある人・団体も可能な限り洗い出しましょう。ケースとは一見無関係な人・団体も含めて、メンバーに知ってほしい人・団体をその理由とともにできるだけ多く挙げましょう（地域で色々な人と関わりながら楽しそうに活動している人・団体を挙げると良いでしょう。）。
- 時間はケース選定・資源の洗い出し、合わせて30分程度です。

## 4. 地域資源を洗い出す②（ケース選定と資源の洗い出し） ー資源の洗い出しワークシート

### ★ポイント：

真ん中の円には、その人の課題だけでなく関心やできることを記載し、福祉的なものに限らずあらゆる資源を洗い出してみましょう。

本人と重なりがありそうな人や資源  
地域で色々な人と関わりながら楽しそうに活動している人・団体

本人の望む暮らしや  
関心を持てること・課題

# 5

1. 重層事業における地域づくりの考え方とプログラム趣旨を共有する
2. 参加メンバーを知る
3. 地域資源を洗い出す①（ケース共有）
4. 地域資源を洗い出す②  
（ケース選定と地域資源の洗い出し）
5. インタビュー計画を立てる
6. クロージング

## 5. インタビュー計画を立てる ーStep2の実践内容

### Step 2 の目的

- ✓ 実際に地域に出て、どのような人や団体が地域でどのような活動をしているのか等、地域の現状を知る。
- ✓ （必要があれば）ケースについて足りない情報を補足する。

### <Setp2の実施内容>

#### （１）インタビューを実践する

- 各担当が方針に沿ってStep1で選定したインタビュー対象者にインタビューを行い、どのような想いを持って活動しているか、活動を始めたきっかけ等を確認する（地域に足を運ぶ）。※2名体制で実施することが望ましい。
- 活動をしていない人であっても、個別ケースの情報やその人のためにあったらよいと思う資源や活動について、何らかの情報やネットワーク、その人自身がやりたいという想いを持っていないか等を探る（個人情報に触れないよう留意する）。

#### （２）個別ケースの情報を補強する

- 必要に応じて、Step1では把握しきれなかったケース情報を収集する。
- 適宜、メンバーと情報交換する（またはStep3で共有する）。

# 5. インタビュー計画を立てる ーインタビューシート（Step2で使用）

- インタビュー対象者に何を聞くか、確認しましょう。

| 実際に会った人<br>(いくつでも) | 活躍している地域<br>(地区名) | どのような活動をしているか<br>(対象、活動内容、活動場所等) | どのような想いを持って活動しているか<br>(活動を始めたきっかけ、困っている事、今後<br>どんなことをしてみたいと思っているか等) |
|--------------------|-------------------|----------------------------------|---------------------------------------------------------------------|
|                    |                   |                                  |                                                                     |

## 5. インタビュー計画を立てる ーインタビュー候補者リスト

- 前の工程で検討した個別ケースに関する資源として洗い出した活動や人・団体も含め、Step2でインタビューする対象者候補を挙げましょう。

| No  | 地域で活躍している人・団体 | 活躍している地域 | メンバーと共有したいと思った理由                                                                           | インタビュー |
|-----|---------------|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| (例) | NPO法人 ●●      | ○○地区     | 子ども食堂を運営しており、そこで大学生ボランティアが不登校の子ども向けに学習支援を行っている。不登校で学習にも不安を抱えている子どもがいたら、この場所を紹介してもらいたいと思った。 | ○      |
|     |               |          |                                                                                            |        |
|     |               |          |                                                                                            |        |
|     |               |          |                                                                                            |        |
|     |               |          |                                                                                            |        |
|     |               |          |                                                                                            |        |

# 5. インタビュー計画を立てる ーTodo整理シート

- Step2の実践が確実に実施できるよう、誰がいつまでに何をするかを明確にします。

| No  | 研修で取り組むこと                              | 担当                     | 期限 |
|-----|----------------------------------------|------------------------|----|
| 1   | インタビュー先との調整（インタビュー依頼、日程調整等）            | 各項目の担当と期限<br>を決めてください。 |    |
| 2   | ケース先との調整（インタビュー依頼、日程調整等）               |                        |    |
| 3   | チームメンバー打ち合わせの準備（招集・場所の確保・資料準備等）        |                        |    |
| 4   | ワークシートとりまとめ・提出                         |                        |    |
| 5   | 取り組むことについては、既定の項目の他に各市町村で自由に設定して構いません。 |                        |    |
| 6   |                                        |                        |    |
| ... |                                        |                        |    |

# 6

1. 重層事業における地域づくりの考え方とプログラム趣旨を共有する
2. 参加メンバーを知る
3. 地域資源を洗い出す①（ケース共有）
4. 地域資源を洗い出す②  
（ケース選定と地域資源の洗い出し）
5. インタビュー計画を立てる
6. クロージング

### チェックアウト

- 本日の感想・今の気持ちを共有しましょう。
- 時間は1人30秒です。

包括的な支援体制構築に向けた実践型プログラム  
(地域づくり編)

## Step3 重なりを生むアイデアを出す

20XX年XX月XX日 (X) XX:XX~XX:XX

# 本日のタイムスケジュール

| 時刻    | 形態<br>(時間)      | 内容                                |
|-------|-----------------|-----------------------------------|
| XX:XX | 各自発表<br>(1人30秒) | ・ オープニング                          |
| XX:XX | ワーク<br>(30分)    | ・ インタビューの結果を共有する                  |
| XX:XX | ワーク<br>(60分)    | ・ 個別ケースとの重なりを生むアイデアを出す            |
| XX:XX | ワーク<br>(30分)    | ・ Step4に向けた準備 ※Step4を省略する場合は実施しない |
| XX:XX | 対話              | ・ クロージング                          |

# 1

1. オープニング
2. インタビューの結果を共有する
3. 個別ケースとの重なりを生むアイデアを出す
4. Step4に向けた準備
5. クロージング

## チェックイン

- 今の気持ち（期待や不安）を話してみましょう。
- 時間は1人30秒です。

# 2

1. オープニング
2. インタビューの結果を共有する
3. 個別ケースとの重なりを生むアイデアを出す
4. Step4に向けた準備
5. クロージング

## 2. インタビューの結果を共有する ー目標と実施内容

### 目標

- 地域の人・団体の具体的な活動や、持っている想いを知る。
- 地域の様々な主体と連携していける可能性を感じられる。

### <趣旨>

- Step2で実践してきた結果の“情報共有”をするだけでなく、地域の可能性に目を向けたという意識と行動そのものの意義を共有することが大切です。
- また、それぞれが持ち込んだ情報から新たな地域の可能性に気づけるかもしれません。

### <実施内容>

- Step2で実施したインタビュー結果を共有しましょう。

## 2. インタビューの結果を共有する ーインタビューシート（Step2で使用）

| 実際に会った人<br>(いくつでも)              | 活躍している地域<br>(地区名) | どのような活動をしているか<br>(対象、活動内容、活動場所等) | どのような想いを持って活動しているか<br>(活動を始めたきっかけ、困っている事、今後<br>どんなことをしてみたいと思っているか等) |
|---------------------------------|-------------------|----------------------------------|---------------------------------------------------------------------|
| <div>メンバーがインタビューした結果を記載する</div> |                   |                                  |                                                                     |

# 3

1. オープニング
2. インタビューの結果を共有する
3. 個別ケースとの重なりを生むアイデアを出す
4. Step4に向けた準備
5. クロージング

### 3. 個別ケースとの重なりを生むアイデアを出す — 目標と実施内容

#### 目標

- 個別ケースと地域の人・団体の想いや活動が重なる可能性があるアイデアを複数出す。

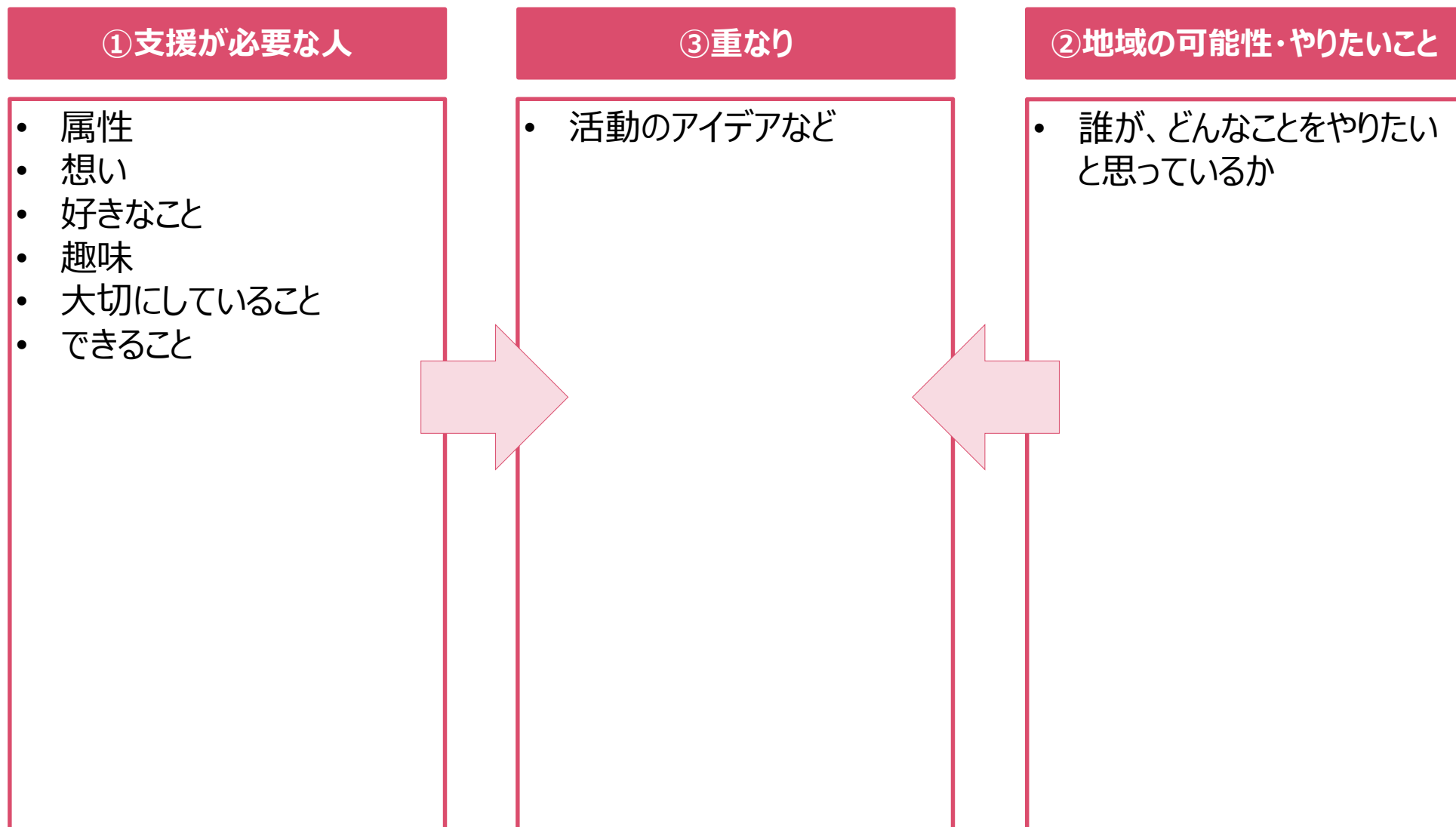
#### <趣旨>

- 本人本位の包括的な支援のためには、重なりを“生み出す”という視点も大切です。
- 再度、Step1で検討したケースについて振り返り、Step2で聞いてきた地域の可能性や住民・団体の想いと重なりをつくれるような活動のアイデアを生む練習をしましょう（練習といっても単なる仮想のシミュレーションではなく、実際に本人と地域とがつながるアイデアを本気で考えてみるのが大切です）。

#### <実施内容>

- 共有された地域の人・団体と、個別ケースとの重なり合いをメンバー同士で検討し、アイデアを出し合しましょう。
- 一通りアイデアを出し終えたら皆で改めてアイデアを眺め、実際に実現できそうなものがあるか意見を出し合しましょう。その際、支援が必要な本人と地域住民・団体のどちらも嬉しいWIN-WINの関係ができるか、という視点で考えてみましょう。また、実現した際に他のケースへの支援にもつなげられる可能性についても意見を交わしましょう。

### 3. 個別ケースとの重なりを生むアイデアを出す ーワークシート（重なり検討ワークシート）



# 4

1. オープニング
2. インタビューの結果を共有する
3. 個別ケースとの重なりを生むアイデアを出す
4. Step4に向けた準備
5. クロージング

## 4. Step4に向けた準備

### 一 目標と実施内容

#### 目標

- Step4で誰が何をいつまでにするかが明確になっている。

#### <趣旨>

- 生み出したアイデアを実現していくためには、対象とするケースの本人、関係者、地域住民・団体等、関係し得る人との協力可能性を模索していくことが必要です。
- そのためStep4で実施すべきことや関係者と対話したいことを挙げて役割分担を決めましょう。

#### <実施内容>

- Step4の趣旨（目的とやること）について確認
- アイデアの実現可能性を検証するために対話したい人を挙げる（ケースとした本人、家族、関係者やインタビューをした地域住民・団体。その他に新たに話を聞いてみたい人がいないか検討し、適宜追加する）。
- 誰が何をいつまでに実施するかを決める。

## 4. Step4に向けた準備

### —Step4の実践の実施目的、実施方法

#### Step4の 目的

- Step 3 で検討した個別ケースと地域の人・団体の取組との重なりを生むアイデアが実際に実現可能かを確認する。

#### <Step4の実施内容>

##### 関係者と対話する

- Step 3 で検討した個別ケースと地域の人・団体の取組との重なり合いが実際に実現可能か、関係者との対話を通じて検討し、実現可能性を探る。（再度インタビュー等実施）

# 4. Step4に向けた準備 ーワークシート（アイデアの実現可能性検討シート）

| 実際に会った人<br>(いくつでも)                                                                                                           | 個別ケースとの重なり<br>合いのアイデア<br>(仮説) | アイデアの実現可能性     |                |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|----------------|----------------|
|                                                                                                                              |                               | アイデアは受け入れられそうか | どのような関わりがあり得るか |
| <div>Step3では、アイデアの実現可能性を検証するために対話したい人を挙げてみましょう。<br/>(ケースとした本人、家族、関係者やインタビューをした地域住民・団体。その他に新たに話を聞いてみたい人がいないか検討し、適宜追加する)</div> |                               |                |                |

# 4. Step4に向けた準備 ーワークシート（今後のToDoと役割分担）

具体的な作業方針や役割分担は、研修が終わった後にチーム内で相談しましょう

| No  | 研修で取り組むこと                              | 担当                     | 期限 |
|-----|----------------------------------------|------------------------|----|
| 1   | インタビュー先との調整（インタビュー依頼、日程調整等）            | 各項目の担当と期限<br>を決めてください。 |    |
| 2   | ケース先との調整（インタビュー依頼、日程調整等）               |                        |    |
| 3   | チームメンバー打ち合わせの準備（招集・場所の確保・資料準備等）        |                        |    |
| 4   | ワークシートとりまとめ・提出                         |                        |    |
| 5   | 取り組むことについては、既定の項目の他に各市町村で自由に設定して構いません。 |                        |    |
| 6   |                                        |                        |    |
| ... |                                        |                        |    |

# 5

1. オープニング
2. インタビューの結果を共有する
3. 個別ケースとの重なりを生むアイデアを出す
4. Step4に向けた準備
5. クロージング

### チェックアウト

- 本日の感想・今の気持ちを共有しましょう。
- 時間は1人30秒です。

包括的な支援体制構築に向けた実践型プログラム  
(地域づくり編)

## Step5 振り返り

20XX年XX月XX日 (X) XX:XX～XX:XX

# 本日のタイムスケジュール

| 時刻    | 形態<br>(時間)                | 内容                                               |
|-------|---------------------------|--------------------------------------------------|
| XX:XX | 各自発表<br>(1人30秒)           | ・ オープニング                                         |
| XX:XX | 各自発表<br>(40分<br>程度)       | ・ 検証結果を共有する<br>※アイデアの実行プランまで話し合いたい場合は時間を多めに確保する。 |
| XX:XX | 対話<br>(60分<br>～90分程<br>度) | ・ 一体的な地域づくりの必要性や体制について検討する                       |
| XX:XX | 対話                        | ・ クロージング                                         |

# 1

1. オープニング
2. 検証結果の共有
3. 一体的な地域づくりの必要性や体制について検討
4. クロージング

## チェックイン

- 今の気持ち（期待や不安）を話してみましょう。
- 時間は1人30秒です。

# 2

1. オープニング
2. 検証結果の共有
3. 一体的な地域づくりの必要性や体制について検討
4. クロージング

## 2. 検証結果の共有 一目標と実施内容

### 目標

- 本プログラムで実践してきた個別ケースから地域づくりに展開していく考え方やプロセスの意義が見出される。

### <趣旨>

- 本プログラムで実践してきた、個別ケース（特に本人の望みや興味関心）にしっかりと目を向け、地域とのつながりを見つけ、実現していくというプロセスは、重層事業における地域づくりの原理原則と言えます。
- ただし、そこで生まれたアイデアが百発百中実現することではなく、むしろ、たくさんの試行と失敗を繰り返す中で、ちょうど良いタイミングや出会いや機会が重なることで、一人ひとりの本人本位の包括的な支援が実現していくものです。
- これまで検討してきたアイデアが実際に実現できるかどうかに関わらず、このプロセスを振り返ることを意識しながらStep4の結果を検証し、たとえアイデアが実現しそうになくても、こうしたプロセスの大切さを全員で確認しましょう。

### <実施内容>

- Step4で確かめてきたアイデアの実現可能性について共有しましょう。

## 2. 検証結果の共有

| 実際に会った人<br>(いくつでも) | 個別ケースとの重なり合いのアイデア<br>(仮説) | アイデアの実現可能性     |                |
|--------------------|---------------------------|----------------|----------------|
|                    |                           | アイデアは受け入れられそうか | どのような関わりがあり得るか |
|                    |                           | メンバーが記載したものを共有 |                |

# 3

1. オープニング
2. 検証結果の共有
3. 一体的な地域づくりの必要性や体制について検討
4. クロージング

# 3. 一体的な地域づくりの必要性や体制について検討

## 一 目標と実施内容

### 目標

- 重層事業における地域づくりについて、その意義やビジョンが見出される。
- 重層事業における地域づくりを実現するために望ましい体制について、メンバーの一人一人の考えを共有できている。
- 地域づくりのための体制・制度の活用策を具体化し、実現に向けた具体的な取組案をメンバー間で共有する。

### <趣旨>

- 本プログラムの総括として、地域づくりとして何を目指していくべきか、目指す姿に対して現状の何を活かすか、または不足しているかを確認し合うことで、メンバーと意識を共有したうえで今後の地域づくりの体制を検討します。

### <実施内容>

- 重層事業における地域づくりについて、改めて振り返りましょう。
- 本プログラムの実践を振り返り、本人本位の包括的な支援や支え・支えられる関係づくりのために、どのような人がどのような行動をすることが必要かを検討しましょう。
- それを実現するために目指したい体制について意見を交わし、現状とのずれやずれを埋めていくために今後取り組んでいくべきことについて意見を洗い出してみましょう。（誰かにやってほしいことだけでなく、自分としてできることについても意見を出す）。
- 地域づくり事業を一体的に実施できる重層事業の制度をより活用することができないか、検討してみましょう。

### 3. 一体的な地域づくりの必要性や体制について検討 一重層事業における地域づくりについて、振り返り

- 重層事業によって、市町村の創意工夫で福祉4分野を一体的に進めることが可能です。
- 地域づくりが、本人本位の包括的な支援や支え・支えられる関係づくりを目指すものです。

#### 重層事業における「地域づくり」事業とは

重層事業の開始とは関係なく、「地域づくり」自体はこれまでも各自治体で進められてきたものでもあります。現状を踏まえて、どのような課題感から重層事業における「地域づくり」事業が設計されているのかについて、重層事業の背景にある「地域共生社会」に関する議論も引用していきながら整理していきます。

#### 「地域づくり」の現状と課題

重層事業の「地域づくり事業」は以下の5事業から構成されています。

#### 「地域づくり」事業を構成する5事業

| 分野   | 事業名                 |
|------|---------------------|
| 介護   | 地域介護予防活動支援事業        |
|      | 生活支援体制整備事業          |
| 障害   | 地域活動支援センター機能強化事業    |
| 子ども  | 地域子育て支援拠点事業         |
| 生活困窮 | 生活困窮者支援等のための地域づくり事業 |

「地域づくり」事業は、「参加支援事業」や「アウトリーチ等を通じた継続的支援事業」と異なり、新たに作られた制度ではなく、既存の5事業を一つにまとめた事業となります。そのため、今まで実施してきた「地域づくり」事業に加えて、「重層事業における「地域づくり」として何をやるべきか」という点について具体的なイメージがつかめず、課題感を抱えている自治体が多いことも見えてきました。

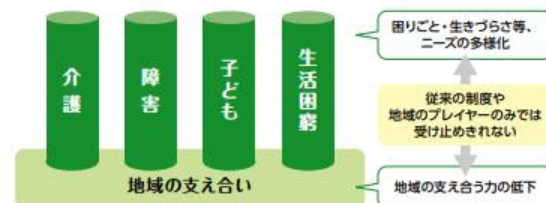
今までも「地域づくり」は行われていたにもかかわらず、重層事業の「地域づくり」事業として4分野(5事業)を一体的に実施することを必要とする背景として大きく以下の2点が挙げられます。

- ニーズ(困りごと)の多様化
- 地域の支え合い(人と人のつながりによる住民自身の課題解決力)の低下

#### 「地域づくり」事業で求められること

上記の実情を踏まえて、重層事業の「地域づくり」事業では、①4分野の事業を一体的に運用することだけでなく、②地域における個人や共同体の活動の活発化・コーディネートを行い地域の「支え合い」を向上・再構築することで、多様なニーズに対応していくことを目的としています。

#### 重層事業以前の制度



#### 重層事業



これまでは各制度の担当職員が、各制度やサービスの範囲内で困りごとを抱える当事者に対してのサポートを検討してきましたが、重層事業において制度の垣根が低くなり、風通しが良くなったことによって、各分野の職員同士が情報を共有し「使える制度はないか」「制度の狭間の部分はどうか対応するか(地域と共にサポートできる体制・仕掛けは作れないか)」といった形で、もともとの制度の枠を超えて、当事者に対する適切なサポートのあり方を検討しやすい体制ができています。

### 3. 一体的な地域づくりの必要性や体制について検討 —Memo

- 本人本位の包括的な支援や支え・支えられる関係づくりのために、どのような人がどのような行動をすることが必要かを検討しましょう。

### 3. 一体的な地域づくりの必要性や体制について検討 —Memo

- それを実現するために目指したい体制について意見を交わし、現状とのずれやずれを埋めていくために今後取り組んでいくべきことについて意見を洗い出してみましょう。

### 3. 一体的な地域づくりの必要性や体制について検討 —Memo

- 地域づくり事業を一体的に実施できる重層事業の制度をより活用することができないか、検討してみましょう。

# 4

1. オープニング
2. 検証結果の共有
3. 一体的な地域づくりの必要性や体制について検討
4. クロージング

### チェックアウト

- プログラム全体を通じた感想と今後に向けた意気込みを共有しましょう。

この事業は令和5年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金  
(社会福祉推進事業分)により実施したものです。

## 包括的支援体制の構築に向けた研修のあり方に関する調査研究

---

令和6(2024)年3月発行

株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所  
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-9 JA 共済ビル9階  
TEL 03-5213-4110(代表) FAX 03-3221-7022

---

不許複製